

奄美群島振興開発アンケート調査

－出身者へのアンケート調査結果－

令和4年9月

 鹿児島県

< 目 次 >

I. 調査概要	1
II. 調査結果	3
1. 回答者の属性	3
2. 集計結果	5
(1) 転出経緯等について	5
(2) Uターン意向について	11
(3) 奄美群島との関わり合いについて	13
(4) 奄美群島の魅力について	14
(5) 奄美群島振興開発事業の評価と期待について	15
参考資料	
アンケート調査票	32

I. 調査概要

本調査の実施概要は以下のとおりとなっている。

□調査目的

奄美群島出身の方が、転出経緯、U ターン意向、奄美群島との関わり合い、奄美群島の魅力、奄美群島振興開発事業の評価と期待などについてどのように考えているのかを把握することを目的とする。

□調査対象者と回収状況

奄美群島出身者 600 人を対象とした。回収状況は 126 人で回収率は 21.0%となっている。

【対象者数と回収状況】

単位：人、%

	発送数	回収数	Web	合計	合計回収率
奄美市	270	39	15	54	20.0
大和村	20	4	0	4	20.0
宇検村	20	2	0	2	10.0
瀬戸内町	70	7	7	14	20.0
龍郷町	20	3	1	4	20.0
喜界町	20	4	0	4	20.0
徳之島町	30	5	6	11	36.7
天城町	30	5	2	7	23.3
伊仙町	20	2	2	4	20.0
和泊町	30	5	3	8	26.7
知名町	50	7	4	11	22.0
与論町	20	3	0	3	15.0
合計	600	86	40	126	21.0

□調査方法

郵送による配布、郵送及びインターネットによる回収。

□調査期間

令和 4 年 7 月中旬～8 月末。

□調査項目

調査項目については、以下のとおり。

【調査項目】

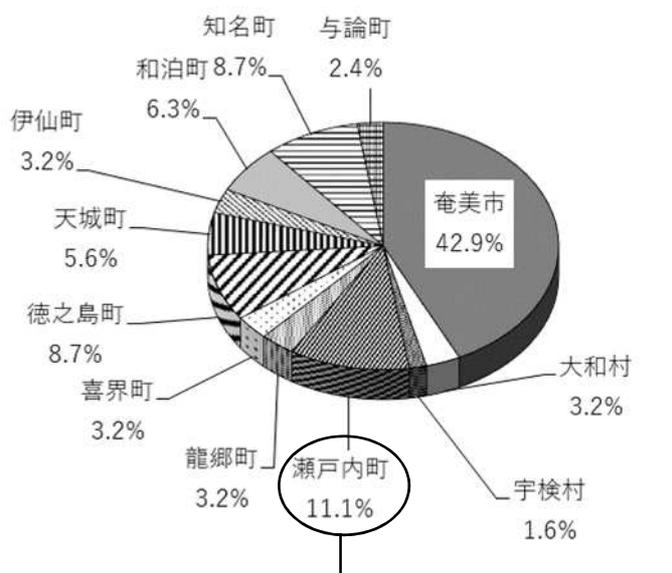
属性	出身の市町村名（12市町村別 瀬戸内町のみ居住する島） 性別、年齢、職業、現在の居住地
A 転出経緯等	問1 奄美群島から転出した年齢（最初の転出時の年齢） 問2 転出した主な理由 問3 親や兄弟・姉妹の奄美群島での居住状況 問4 奄美群島への帰省状況 問5 島外との航空交通について改善して欲しいこと
B Uターン意向	問6 奄美群島での居留意向 問7 奄美群島で暮らしたいと思う理由 問8 島へのU・Iターン及び二地域居住等促進のために必要なこと
C 奄美群島との関わり合い	問9 郷土出身者会等への参加状況 問10 郷土出身者会等が奄美群島の振興開発のために果たすべき役割
D 奄美群島の魅力	問11 奄美群島の魅力
E 奄美群島振興開発事業の評価と期待	問12 10年前と比較した島の全体的なイメージの評価 問13 奄美群島振興開発事業に対する満足度（42項目） ●定住を促進するための方策（6項目） ・産業の振興（5項目） ・移住・交流の促進（1項目） ●世界自然遺産登録などを生かした交流拡大のための方策（3項目） ・世界自然遺産登録を見据えた取組の推進（1項目） ・共生ネットワークの形成（1項目） ・群島内外との交流の促進（1項目） ●滞在型・着地型観光を促進するための方策（2項目） ・地域資源を生かした観光施策の展開（1項目） ・愛着を育む地域文化の継承、創造（1項目） ●奄美群島が抱える条件不利性の改善（16項目） ・航空運賃の軽減、航路運賃の軽減、群島内の誘客・周遊促進、奄美・沖縄の連携交流促進、農林水産物等の輸送コスト支援、水産物流通支援事業、奄美群島成長戦略の推進、物価の軽減（8項目） ・交通基盤の整備（3項目） ・防災及び国土保全（5項目） ●奄美群島の生活基盤の確保・充実（15項目） ・保健医療福祉（3項目） ・教育及び人材育成（2項目） ・生活環境（7項目） ・資源・エネルギー（3項目） 問14 奄美群島の将来の姿の希望 問15 今後の島の発展・振興のために力を入れるべき産業 問16 沖縄県の振興施策のうち、奄美群島においても対等な競争をするために力を入れて支援すべきと考える施策 問17 日本において奄美群島が果たしている役割又は今後果たすべき役割 問18 奄美群島の今後の問題点 問19 奄美群島振興開発特別措置法についての考え 問20 奄美群島の振興開発についての意見・提言（自由回答）

II. 調査結果

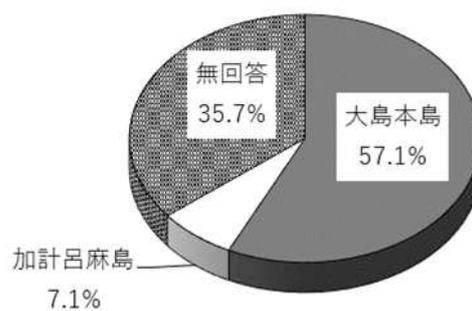
1. 回答者の属性

回答者 126 人の属性は、以下のとおりとなっている。

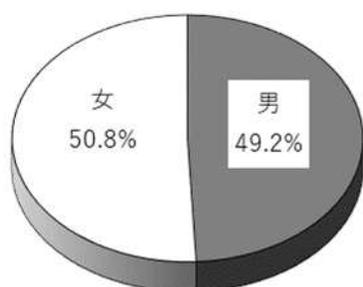
【出身の市町村 (N=126)】



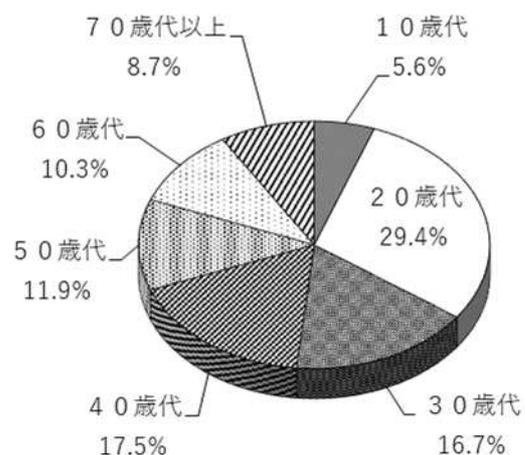
○瀬戸内町出身で居住していた島 (N=14)



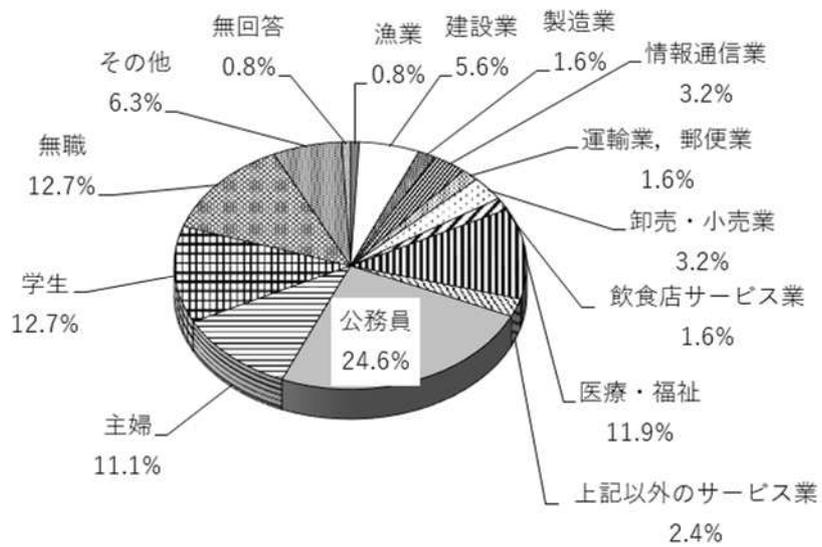
【性別 (N=126)】



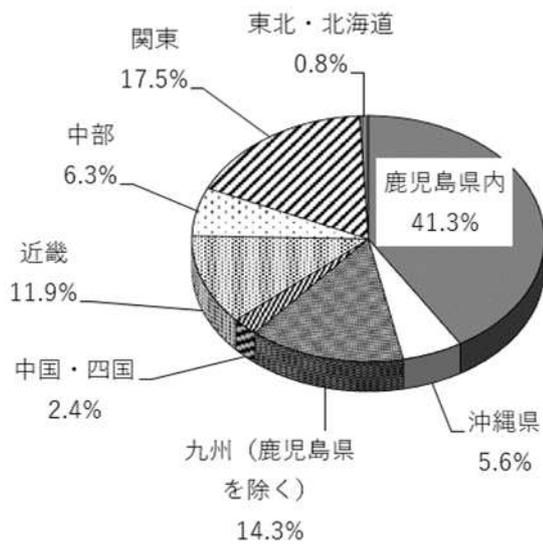
【年齢 (N=126)】



【職業 (N=126)】



【居住している地域 (N=126)】



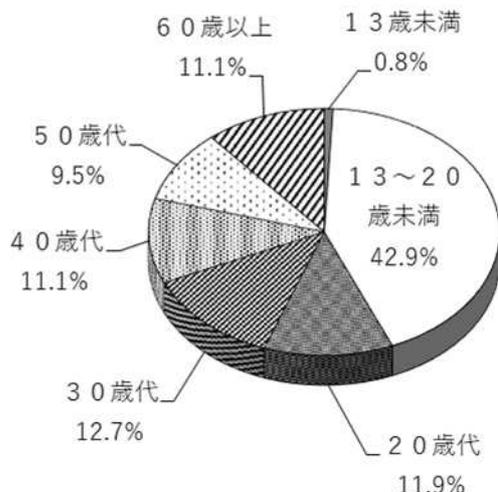
2. 集計結果

(1) 転出経緯等について

① 奄美群島から転出した年齢（最初の転出時の年齢）

奄美群島から転出した年齢（最初の転出時の年齢）については、「13～20 歳未満」が 42.9%で最も多くなっており、次いで「30 歳代」（12.7%）、「20 歳代」（11.9%）などとなっている。

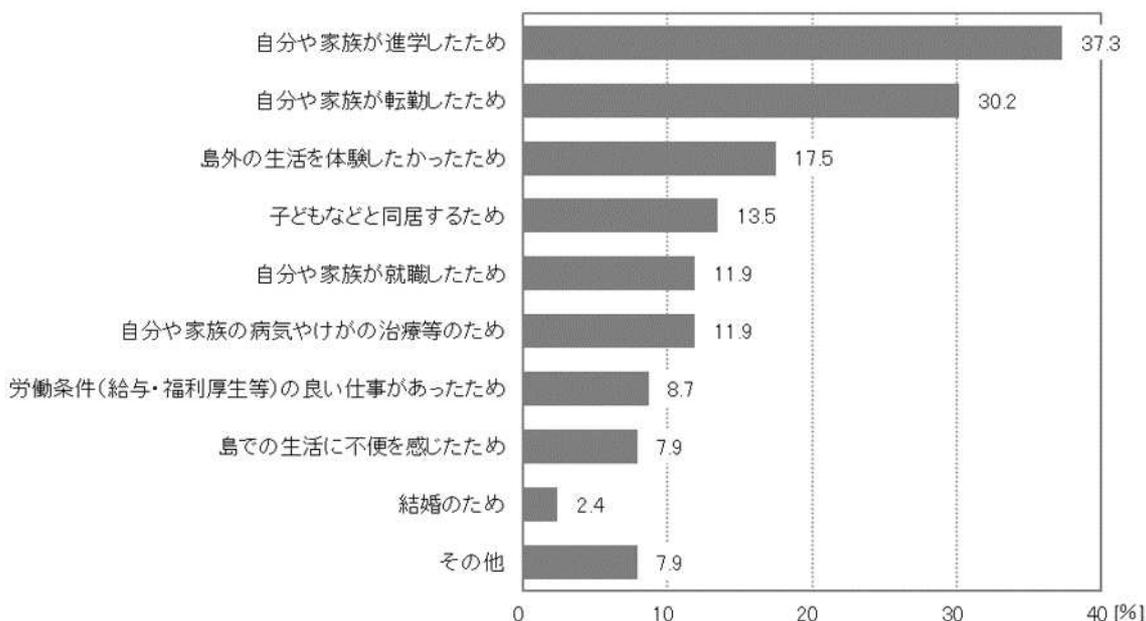
【奄美群島から転出した年齢（最初の転出時の年齢）（N=126）】



② 転出した主な理由

転出した主な理由については、「自分や家族が進学したため」が 37.3%で最も多く、次いで「自分や家族が転職したため」(30.2%)、「島外の生活を体験したかったため」(17.5%) などとなっている。

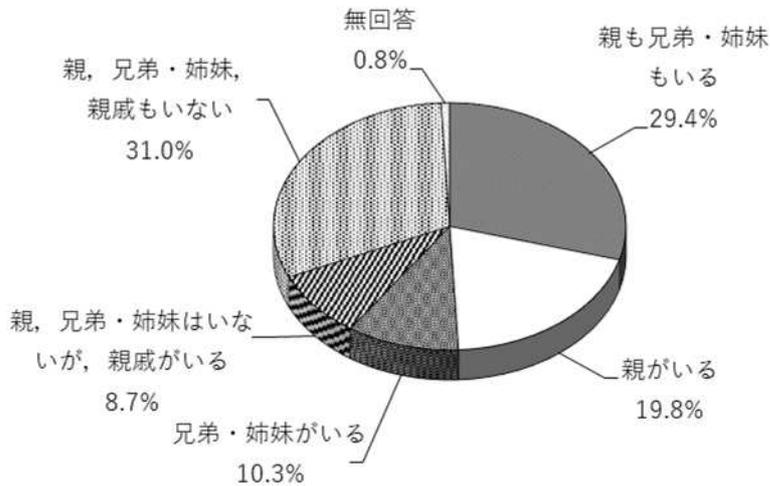
【転出した主な理由（N=126）】



③ 親や兄弟・姉妹の奄美群島での居住状況

親や兄弟・姉妹の奄美群島での居住状況については、「親、兄弟・姉妹、親戚もいない」が31.0%で最も多くなっており、次いで「親も兄弟・姉妹もいる」(29.4%)、「親がいる」(19.8%) などとなっている。

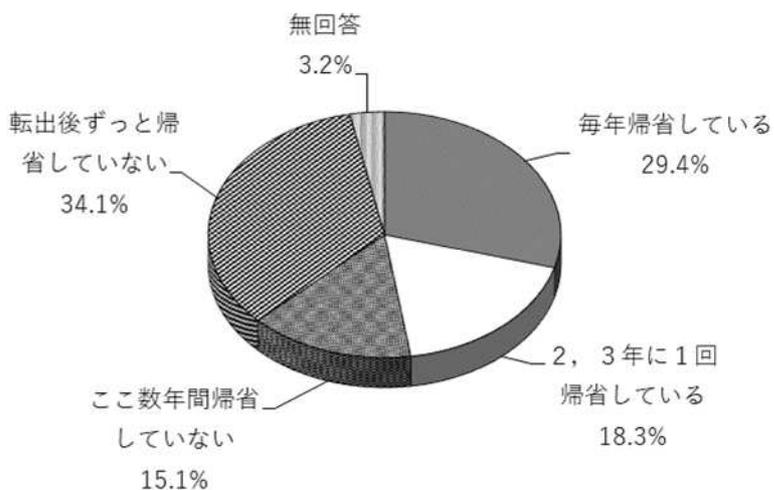
【親や兄弟・姉妹の奄美群島での居住状況 (N=126)】



④ 奄美群島への帰省状況

奄美群島への帰省状況については、「転出後ずっと帰省していない」が34.1%で最も多くなっており、次いで「毎年帰省している」(29.4%)、「2, 3年に1回帰省している」(18.3%) などとなっている。

【奄美群島への帰省状況 (N=126)】

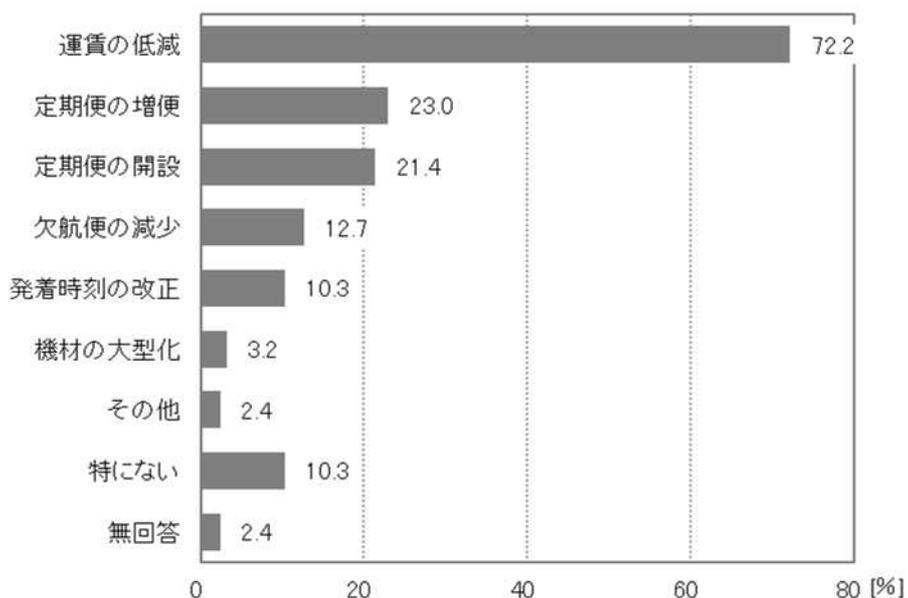


⑤ 島外との航空交通について改善して欲しいこと

① 島外との航空交通について改善して欲しいこと

島外との航空交通について改善して欲しいことについては、「運賃の低減」が72.2%で突出しており最も多く、次いで「定期便の増便」(23.0%)、「定期便の開設」(21.4%)などとなっている。

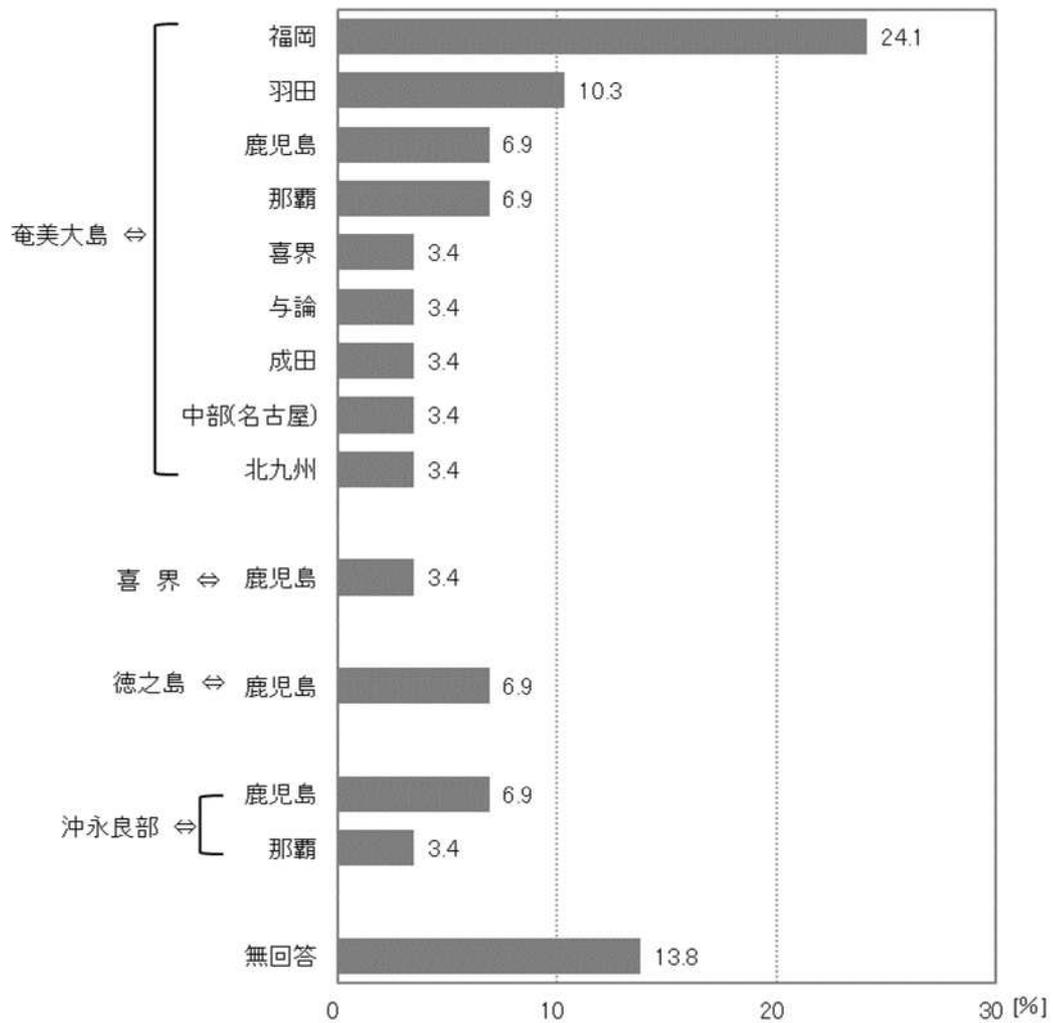
【島外との航空交通について改善して欲しいこと (N=126)】



②定期便の増便について

定期便の増便の回答内容についてみると、「奄美大島」と「福岡」間の定期便の増便の改善を望む声が最も多くなっている。「奄美大島」以外の奄美群島内の空港については、「鹿児島」との間の定期便の増便を望む声が多くなっている。

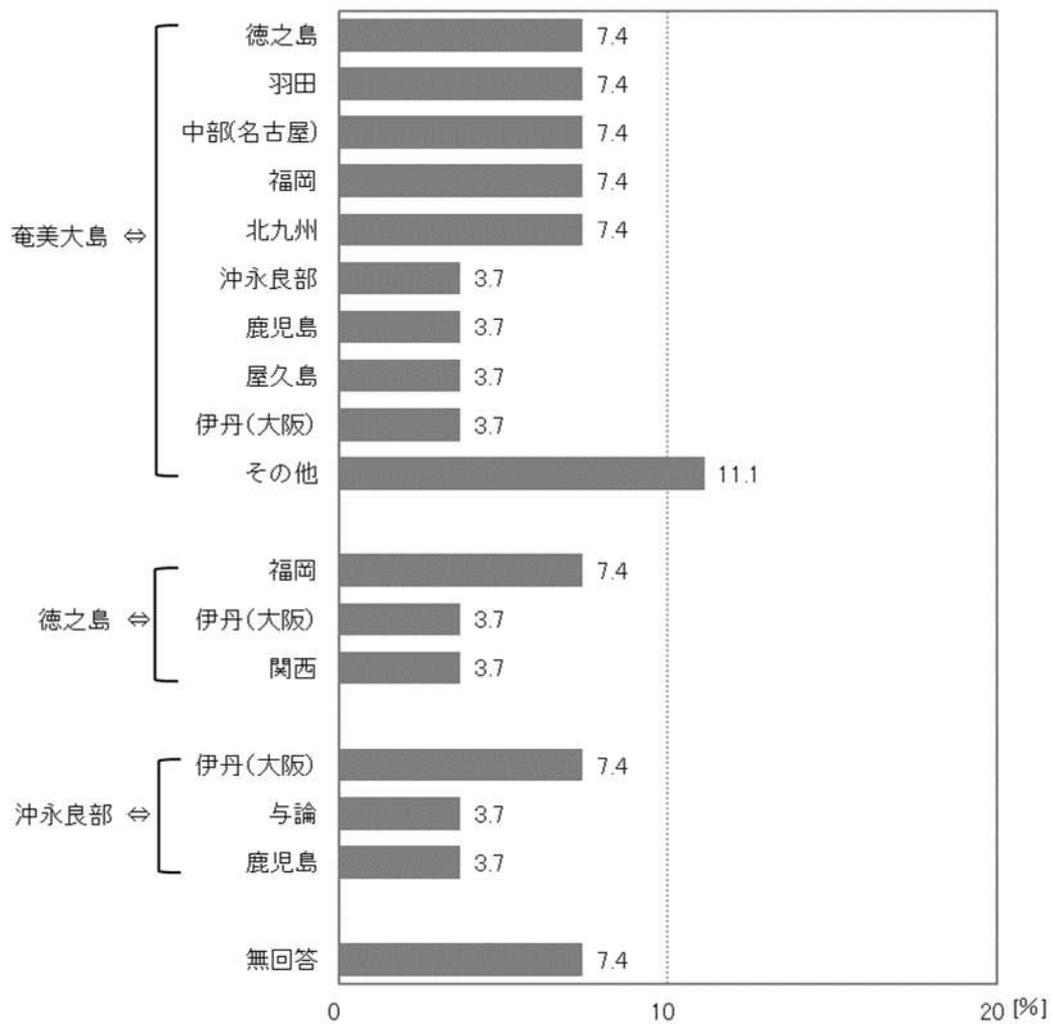
【定期便の増便 (N=29)】



③定期便の開設について

定期便の開設の回答内容についてみると、奄美群島内の各空港から「羽田」、「福岡」、「伊丹（大阪）」等の大都市圏との定期便の開設を望むが声が多くなっている。

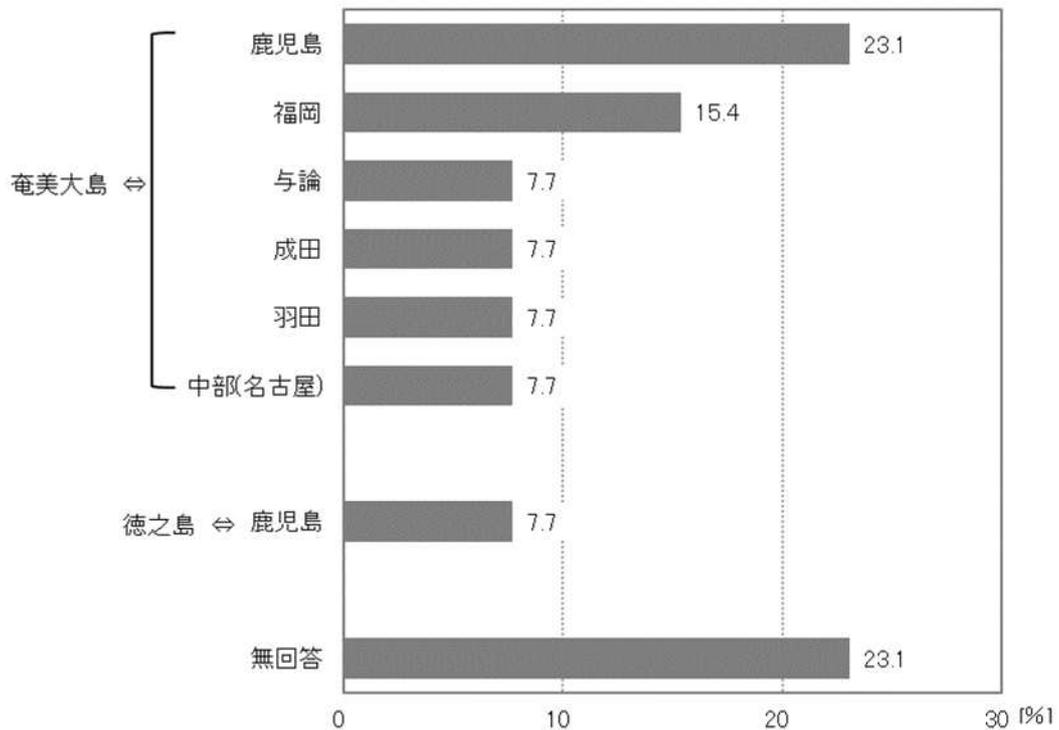
【定期便の開設（N=27）】



④発着時刻の改正について

発着時刻の改正の回答内容についてみると、「奄美大島」、「徳之島」がともに「鹿児島」線の発着時刻の改正を望む声が最も多くなっている。

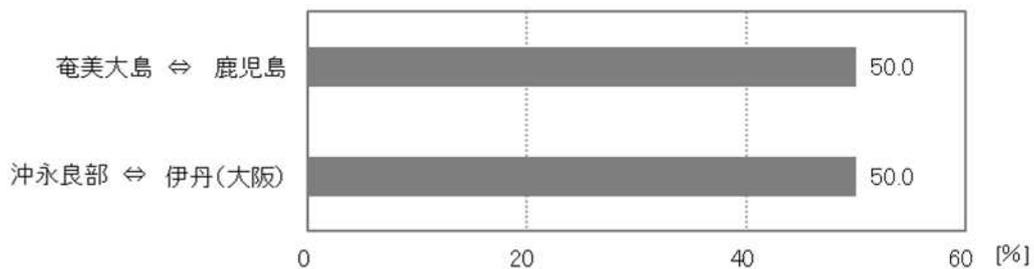
【発着時刻の改正 (N=13)】



⑤機材の大型化について

機材の大型化の回答内容についてみると、「奄美大島」・「鹿児島」線、「沖永良部」・「伊丹 (大阪)」線の機材の大型化を望む声が挙がっている。

【機材の大型化 (N=4)】

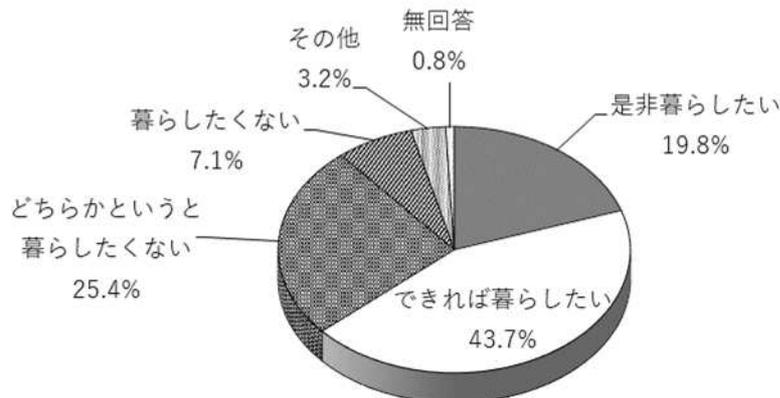


(2) Uターン意向について

① 奄美群島での居留意向

奄美群島での居留意向については、『奄美群島内で暮らしたい』（「是非暮らしたい」と「できれば暮らしたい」の合計）が63.5%となっており、『奄美群島内で暮らしたくない』（「どちらかというとも暮らしたくない」と「暮らしたくない」の合計）（32.5%）を上回っている。

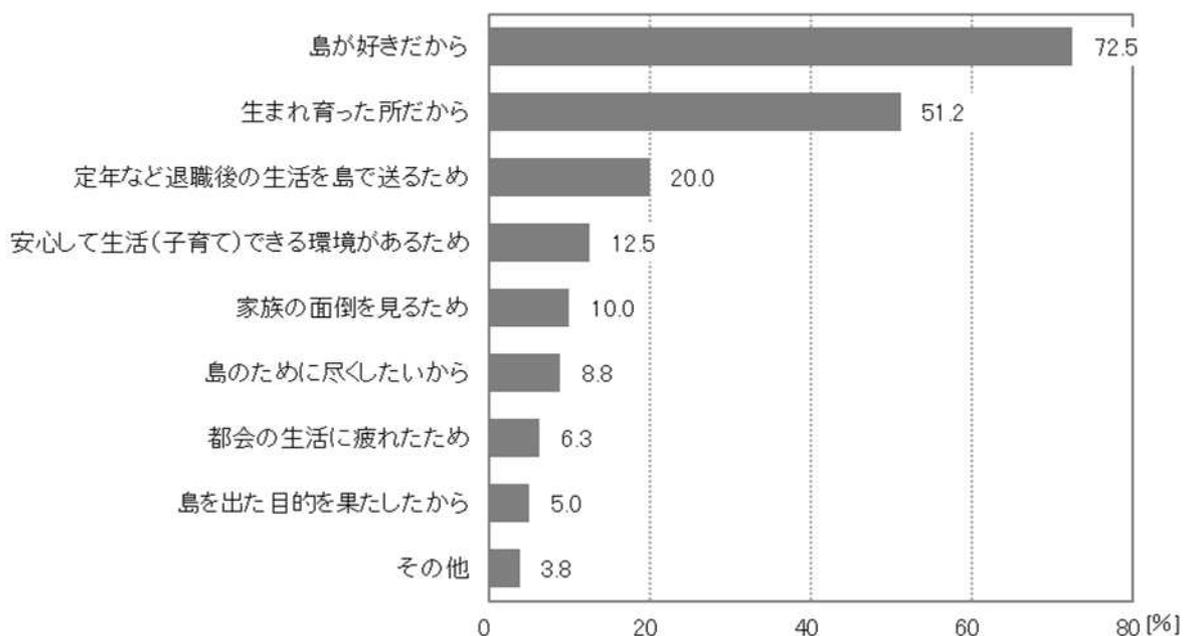
【奄美群島での居留意向（N=126）】



② 奄美群島で暮らしたいと思う理由

『奄美群島内で暮らしたい』と回答した人の暮らしたいと思う理由については、「島が好きだから」が72.5%で最も多く、次いで「生まれ育った所だから」（51.2%）、「定年など退職後の生活を島で送るため」（20.0%）などとなっている。

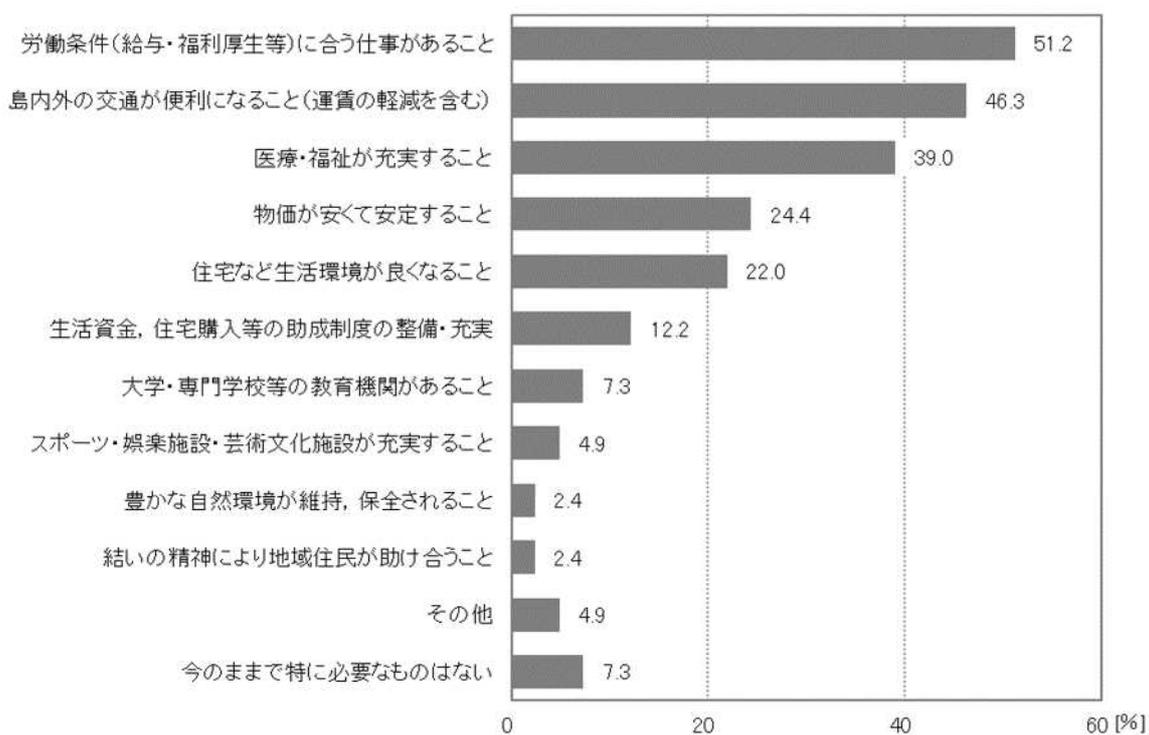
【奄美群島で暮らしたいと思う理由（N=80）】



③ 島へのU・Iターン及び二地域居住等促進のために必要なこと

『奄美群島内で暮らしたくない』と回答した人の島へのU・Iターン及び二地域居住等促進のために必要なことについては、「労働条件（給与・福利厚生等）に合う仕事があること」が51.2%で最も多く、次いで「島内外の交通が便利になること（運賃の軽減を含む）」（46.3%）、「医療・福祉が充実すること」（39.0%）などとなっている。

【島へのU・Iターン及び二地域居住等促進のために必要なこと（N=41）】

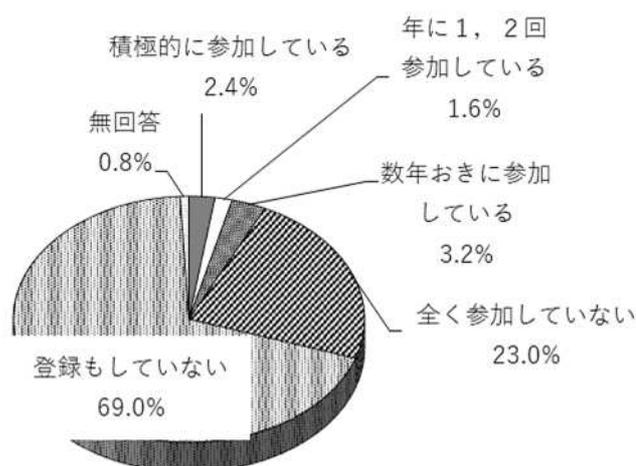


(3) 奄美群島との関わり合いについて

① 郷土出身者会等への参加状況

郷土出身者会等への参加状況については、「登録もしていない」が69.0%で約7割を占め最も多くなっており、次いで「全く参加していない」(23.0%)、「数年おきに参加している」(3.2%) などとなっている。

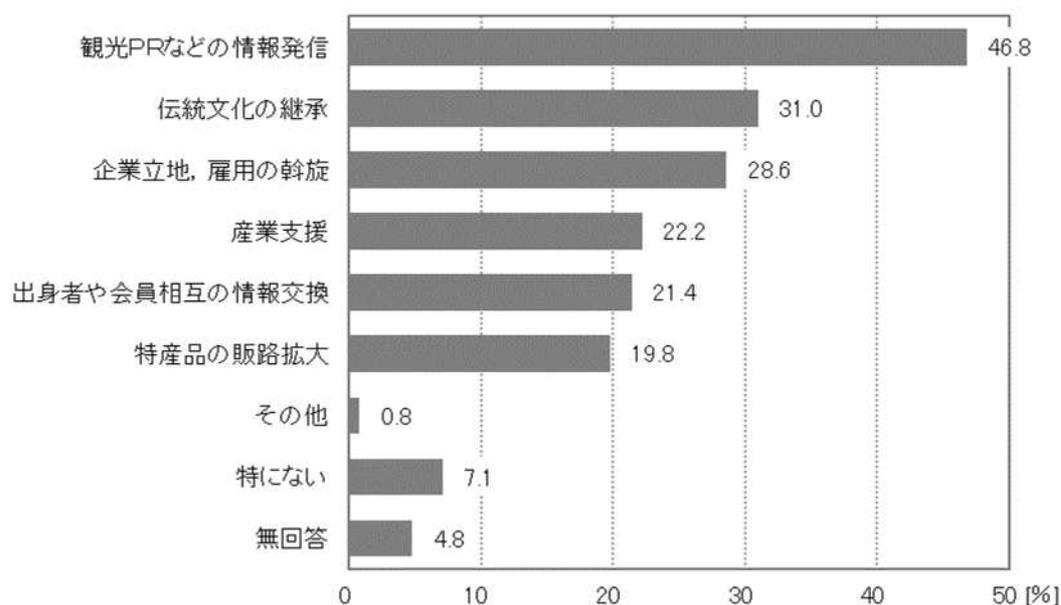
【郷土出身者会等への参加状況 (N=126)】



② 郷土出身者会等が奄美群島の振興開発のために果たすべき役割

郷土出身者会等が奄美群島の振興開発のために果たすべき役割については、「観光PRなどの情報発信」が46.8%で最も多くなっており、次いで「伝統文化の継承」(31.0%)、「企業立地、雇用の斡旋」(28.6%) などとなっている。

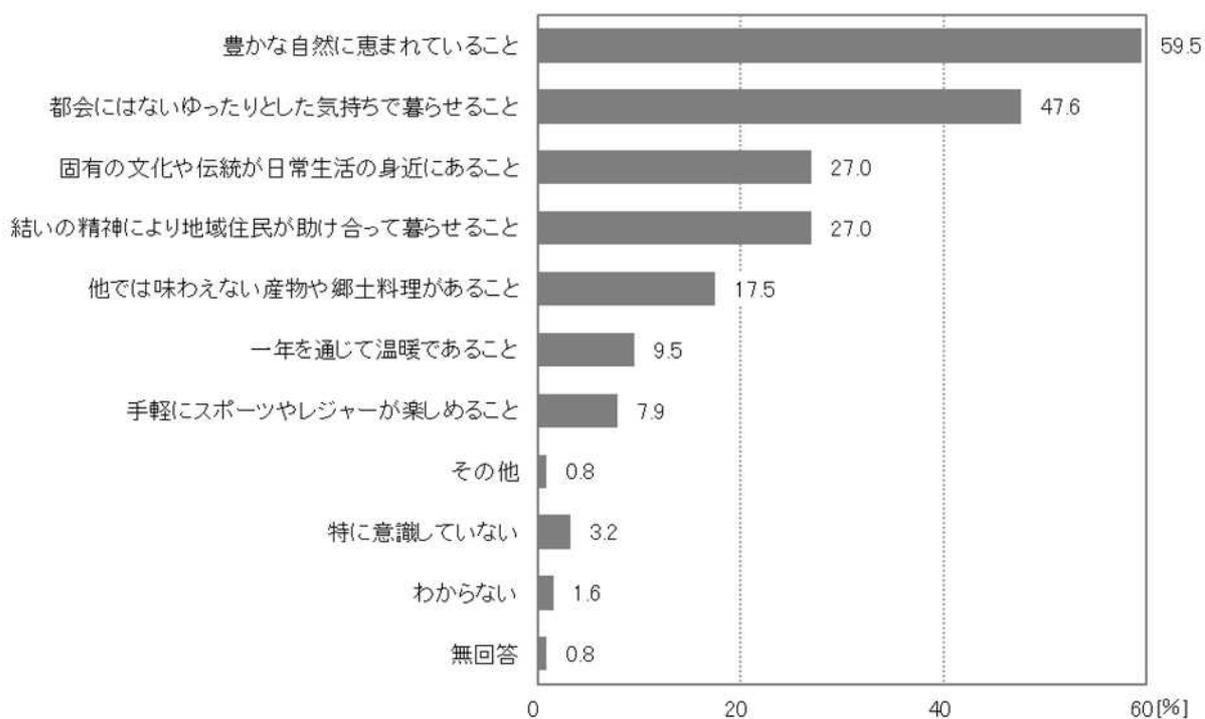
【郷土出身者会等が奄美群島の振興開発のために果たすべき役割 (N=126)】



(4) 奄美群島の魅力について

奄美群島の魅力については、「豊かな自然に恵まれていること」が 59.5%で最も多く、次いで「都会にはないゆったりとした気持ちで暮らせること」(47.6%)、「固有の文化や伝統が日常生活の身近にあること」と「結いの精神により地域住民が助け合って暮らせること」(ともに 27.0%) などとなっている。

【奄美群島の魅力 (N=126)】

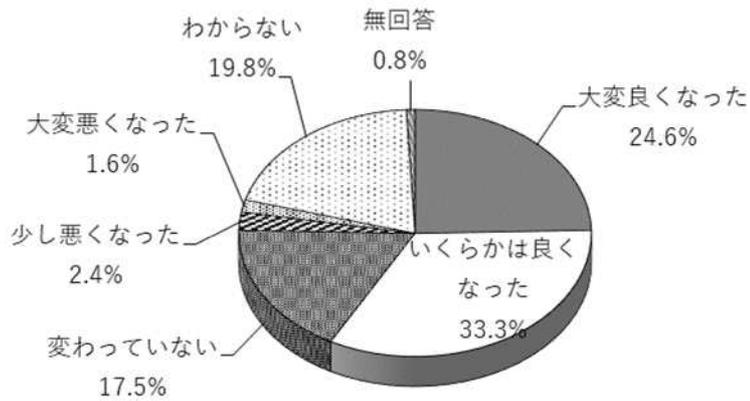


(5) 奄美群島振興開発事業の評価と期待について

① 10年前と比較した島の全体的なイメージの評価

10年前と比較した島の全体的なイメージの評価については、『良くなった』（「大変良くなった」と「いくらかは良くなった」の合計）が57.9%で約6割を占めており、『悪くなった』（「少し悪くなった」と「大変悪くなった」の合計）は4.0%にとどまっている。

【10年前と比較した島の全体的なイメージの評価（N=126）】



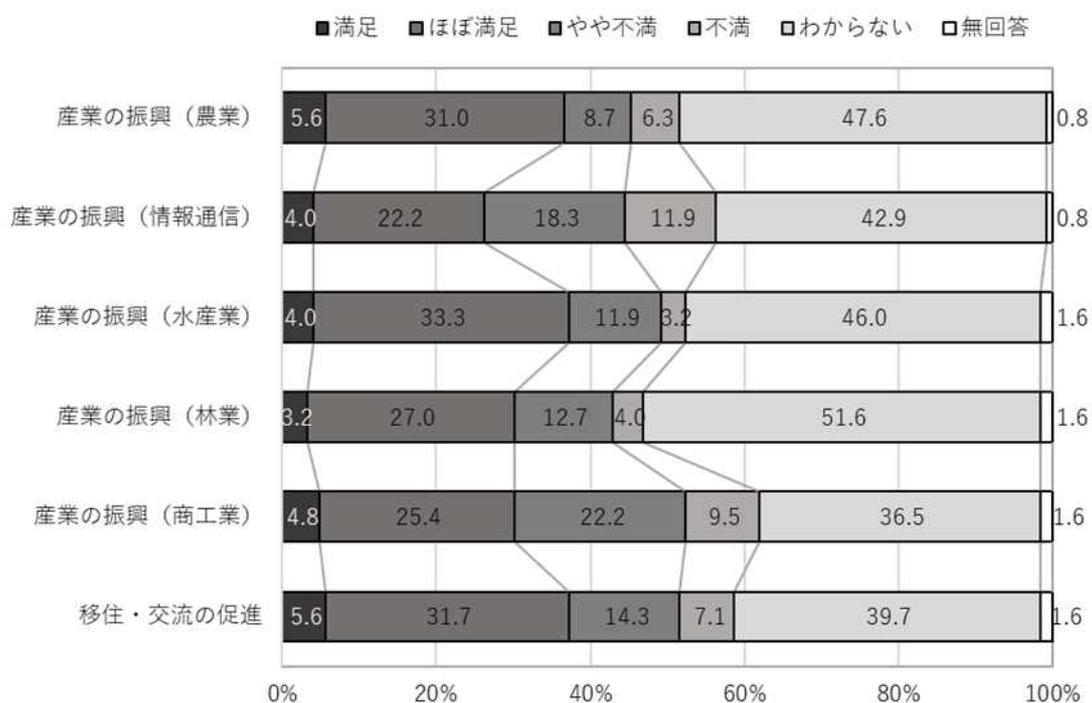
② 奄美群島振興開発事業における定住を促進するための方策についての評価

奄美群島振興開発事業における定住を促進するための方策については、どの方策についても「わからない」が最も多くなっている。

『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「産業の振興（水産業）」、「移住・交流の促進」が37.3%で最も多く、次いで「産業の振興（農業）」（36.6%）となっている。

一方、『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）と回答した割合をみると、「産業の振興（商工業）」が31.7%で最も多く、次いで「産業の振興（情報通信）」（30.2%）などとなっており、この2項目については『不満』が『満足』を上回っている。

【奄美群島振興開発事業における定住を促進するための方策についての評価（N=126）】



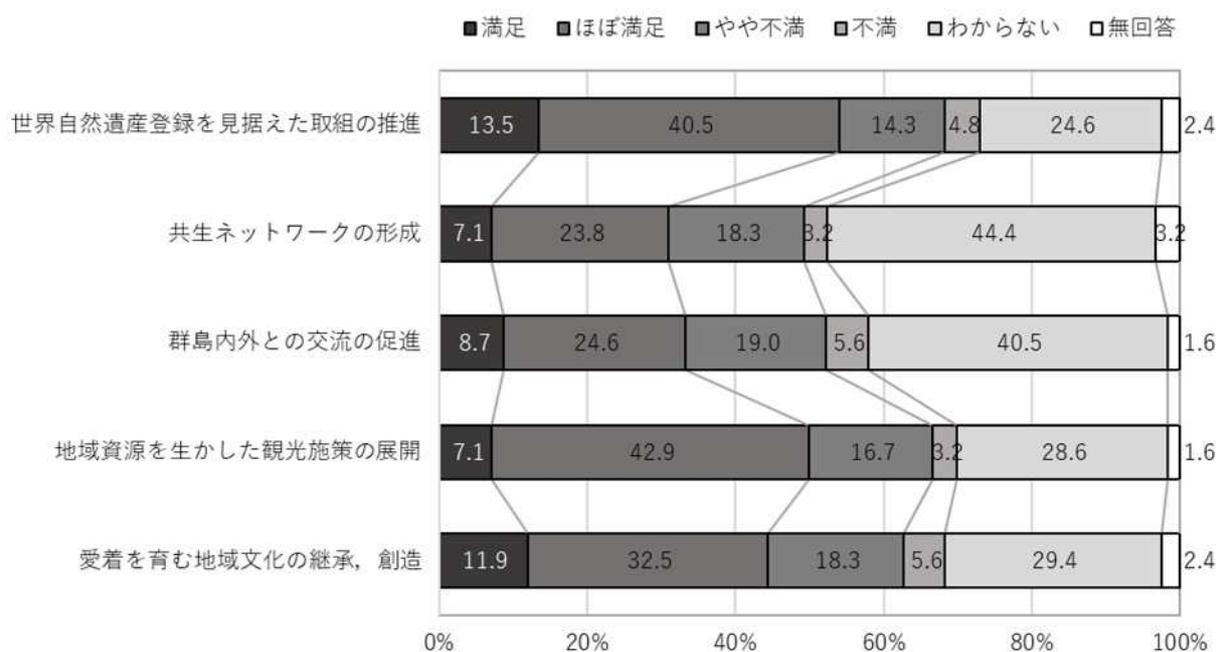
③ 奄美群島振興開発事業における世界自然遺産登録などを生かした交流拡大のための方策及び滞在型・着地型を促進するための方策

奄美群島振興開発事業における世界自然遺産登録などを生かした交流拡大のための方策及び滞在型・着地型を促進するための方策について、『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「世界自然遺産登録を見据えた取組の推進」が54.0%で最も多く、次いで「地域資源を生かした観光施策の展開」（50.0%）、「愛着を育む地域文化の継承，創造」（44.4%）などとなっている。

その一方で、「共生ネットワークの形成」、「群島内外との交流の促進」については「わからない」が最も多くなっており4割を超えている。

なお『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）と回答した割合については、「群島内外との交流の促進」が24.6%で最も多く、次いで「愛着を育む地域文化の継承，創造」（23.9%）、「共生ネットワークの形成」（21.5%）などとなっている。

【奄美群島振興開発事業における世界自然遺産登録などを生かした交流拡大のための方策及び滞在型・着地型を促進するための方策（N=126）】



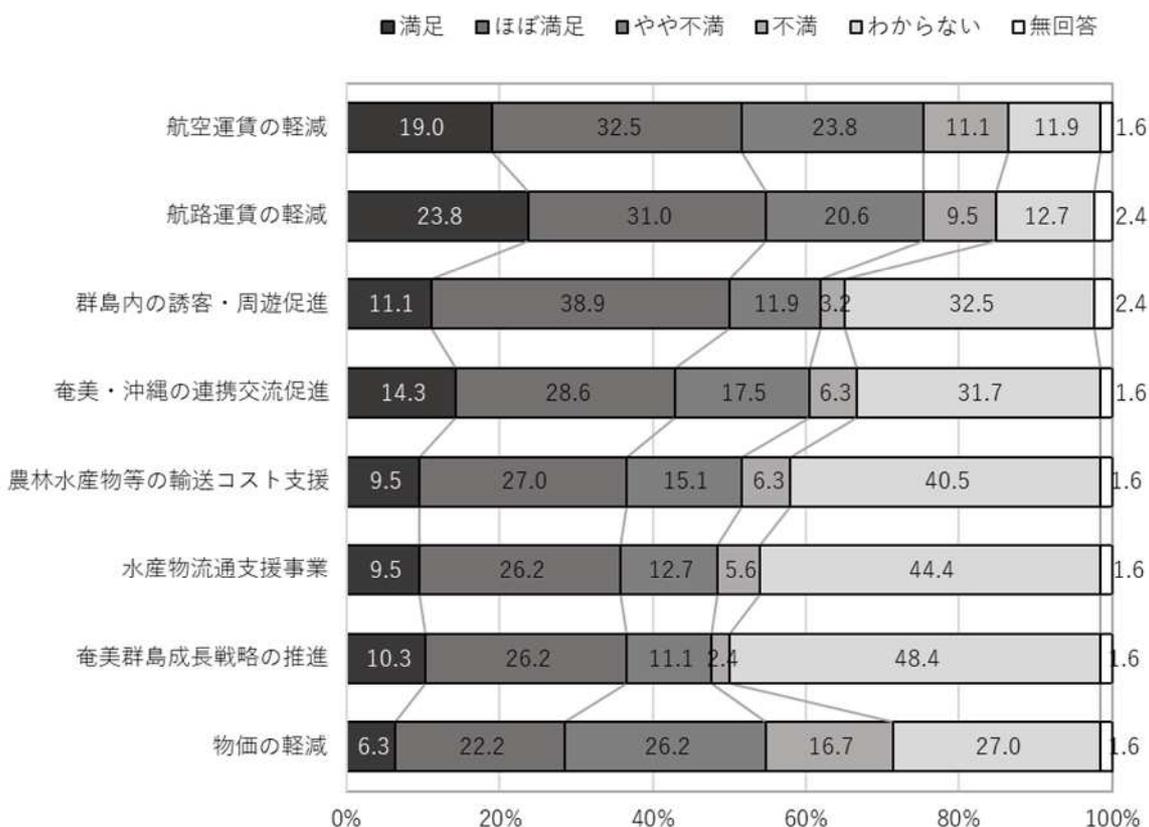
③ 奄美群島振興開発事業における奄美群島が抱える条件不利性の改善（その1）についての評価

奄美群島振興開発事業における奄美群島が抱える条件不利性の改善（その1）について、『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「航路運賃の軽減」が54.8%で最も多く、次いで「航空運賃の軽減」（51.5%）、「群島内の誘客・周遊促進」（50.0%）などとなっている。

その一方で、「奄美・沖縄の連携交流促進」、「農林水産物等の輸送コスト支援」、「水産物流通支援事業」、「奄美群島成長戦略の推進」、「物価の軽減」については、「わからない」が最も多くなっている。

なお、『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）と回答した割合については、「物価の軽減」が42.9%で最も多く、唯一『満足』と回答した割合を上回っている。

【奄美群島振興開発事業における奄美群島が抱える条件不利性の改善（その1）についての評価（N=126）】



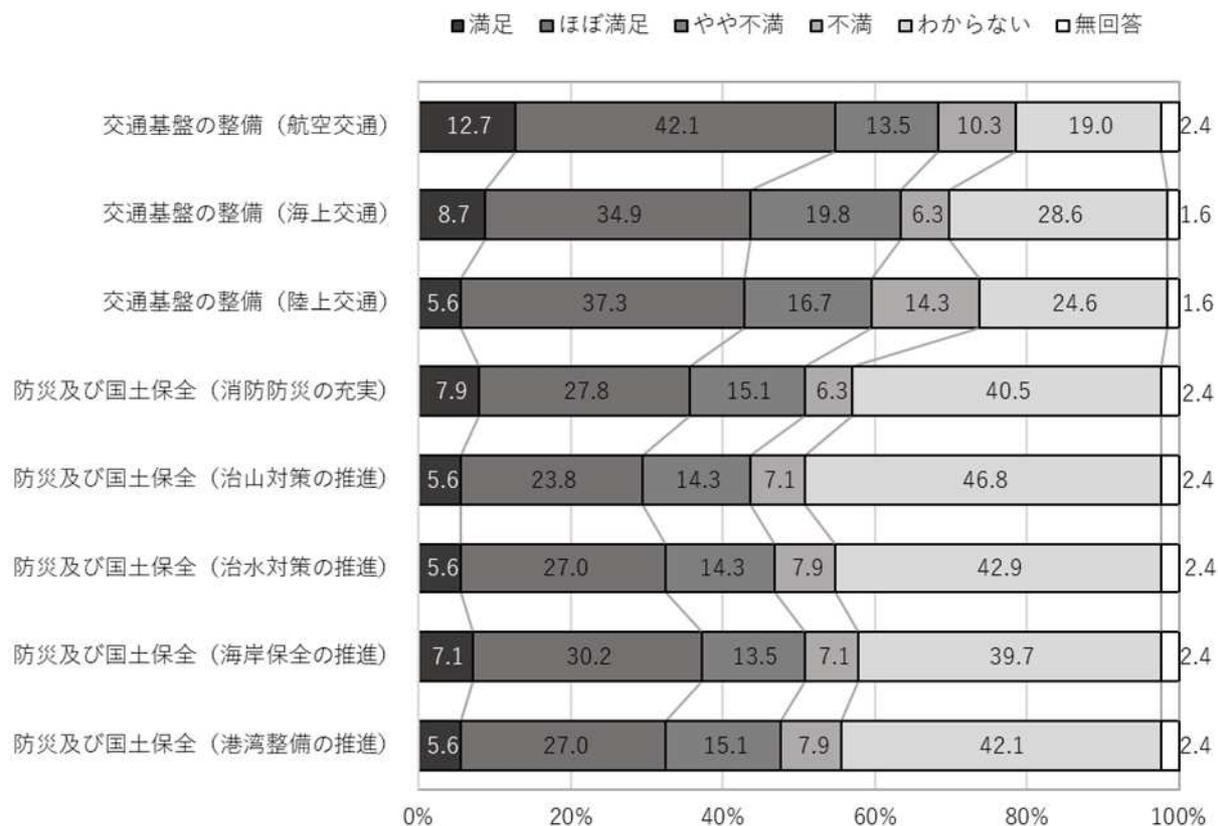
④ 奄美群島振興開発事業における奄美群島が抱える条件不利性の改善（その2）についての評価

奄美群島振興開発事業における奄美群島が抱える条件不利性の改善（その2）について、『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「交通基盤の整備（航空交通）」が54.8%で最も多く、次いで「交通基盤の整備（海上交通）」（43.6%）、「交通基盤の整備（陸上交通）」（42.9%）などとなっている。

その一方で、「防災及び国土保全（消防防災の充実）」、「防災及び国土保全（治山対策の推進）」、「防災及び国土保全（治水対策の推進）」、「防災及び国土保全（海岸保全の推進）」、「防災及び国土保全（港湾整備の推進）」については、「わからない」が最も多くなっている。

なお、『不満』（「やや不満」と「不満の合計」と回答した割合については、「交通基盤の整備（陸上交通）」が31.0%で最も多く、次いで「交通基盤の整備（海上交通）」（26.1%）、「交通基盤の整備（航空交通）」（23.8%）などとなっている。

【奄美群島振興開発事業における奄美群島が抱える条件不利性の改善（その2）についての評価（N=126）】



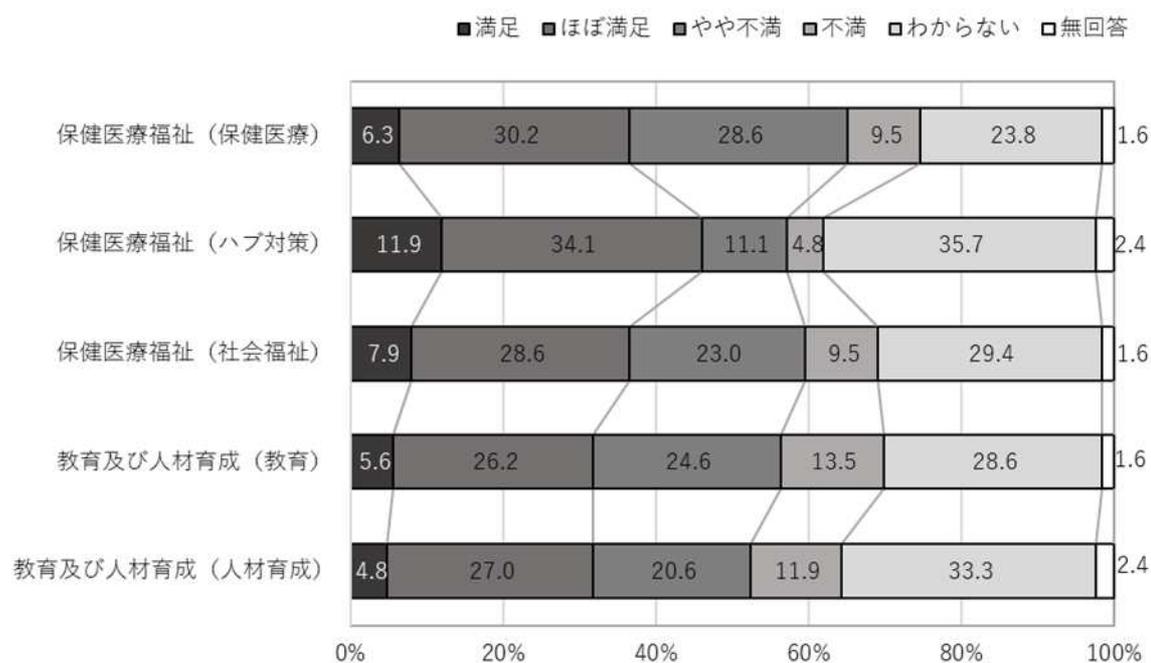
⑤ 奄美群島振興開発事業における奄美群島の生活基盤の確保・充実（その1）についての評価

奄美群島振興開発事業における奄美群島の生活基盤の確保・充実（その1）については、「保健医療福祉（保健医療）」以外において「わからない」が最も多くなっている。

『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「保健医療福祉（ハブ対策）」が46.0%で最も多く、次いで「保健医療福祉（保健医療）」と「保健医療福祉（社会福祉）」（ともに36.5%）などとなっている。

一方で、『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）と回答した割合をみると、「保健医療福祉（保健医療）」と「教育及び人材育成（教育）」がともに38.1%で最も多く、次いで「保健医療福祉（社会福祉）」と「教育及び人材育成（人材育成）」（ともに32.5%）となっている。

【奄美群島振興開発事業における奄美群島の生活基盤の確保・充実（その1）についての評価（N=126）】



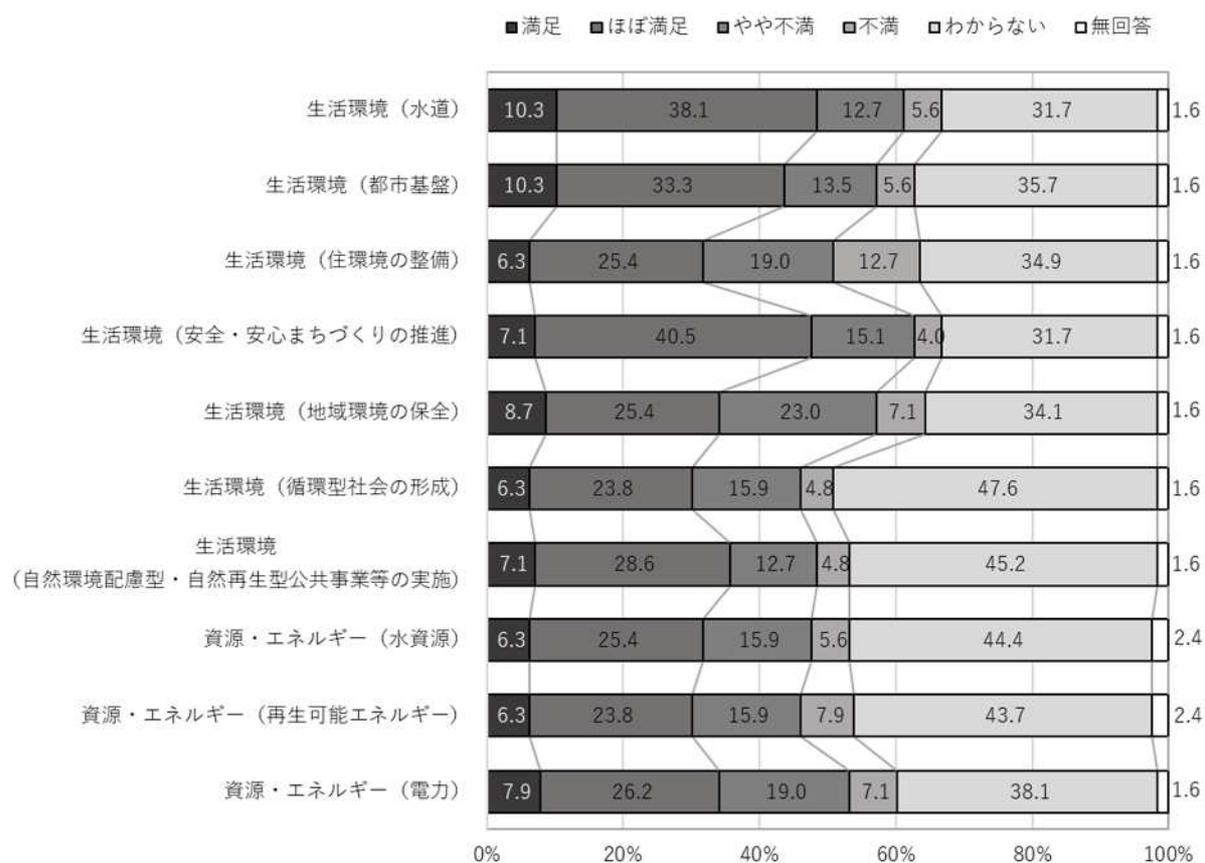
⑥ 奄美群島振興開発事業における奄美群島の生活基盤の確保・充実（その2）についての評価

奄美群島振興開発事業における奄美群島の生活基盤の確保・充実（その2）については、「生活環境（水道）」、「生活環境（安全・安心まちづくりの推進）」以外において「わからない」が最も多くなっている。

『満足』（「満足」と「ほぼ満足」の合計）と回答した割合をみると、「生活環境（水道）」が48.4%で最も多く、次いで「生活環境（安全・安心まちづくりの推進）」（47.6%）、「生活環境（都市基盤）」（43.6%）などとなっている。

一方で、『不満』（「やや不満」と「不満」の合計）と回答した割合をみると、「生活環境（住環境の整備）」が31.7%で最も多く、次いで「生活環境（地域環境の保全）」（30.1%）、「資源・エネルギー（電力）」（26.1%）などとなっている。

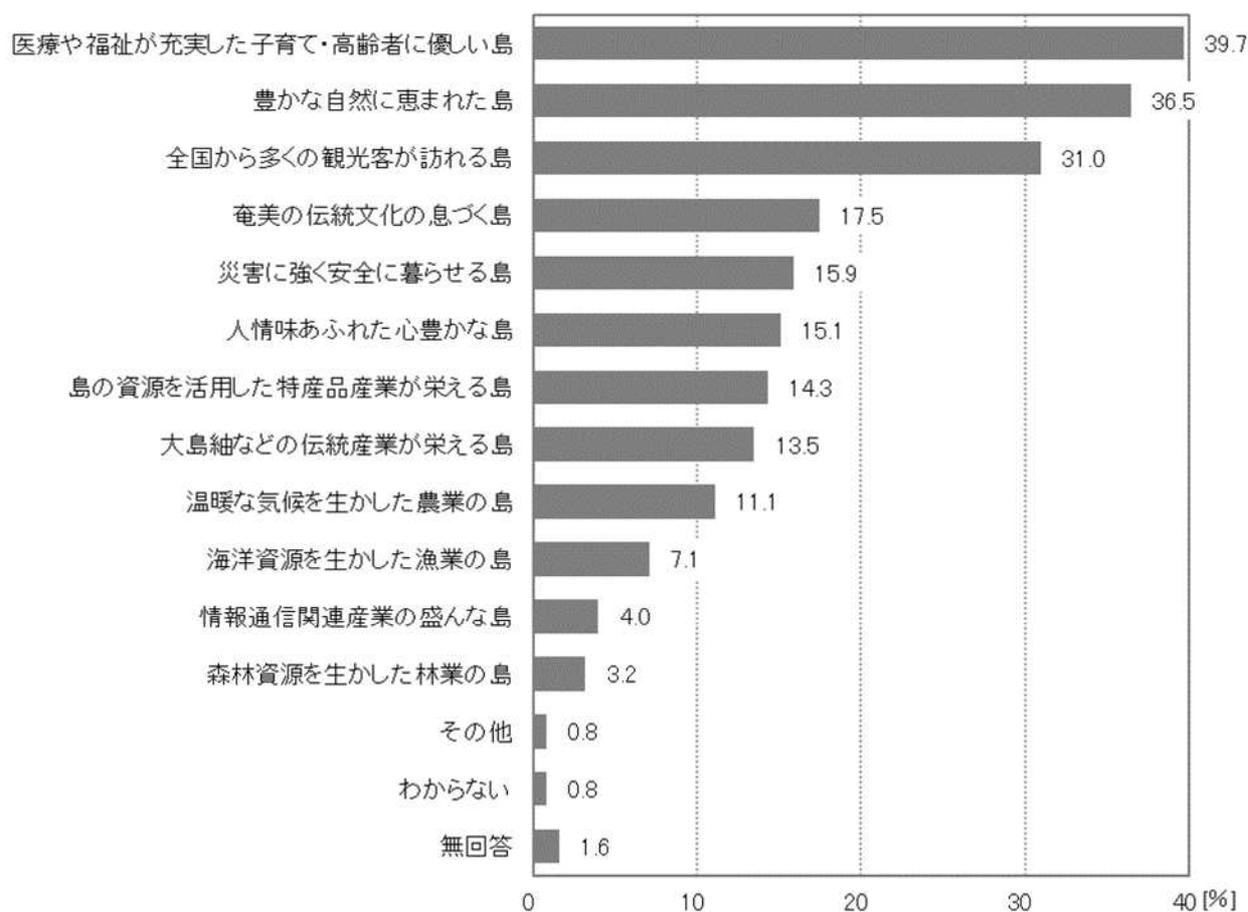
【奄美群島振興開発事業における奄美群島の生活基盤の確保・充実（その2）についての評価（N=126）】



⑦ 奄美群島の将来の姿の希望

奄美群島の将来の姿の希望については、「医療や福祉が充実した子育て・高齢者に優しい島」が39.7%で最も多く、次いで「豊かな自然に恵まれた島」(36.5%)、「全国から多くの観光客が訪れる島」(31.0%) などとなっている。

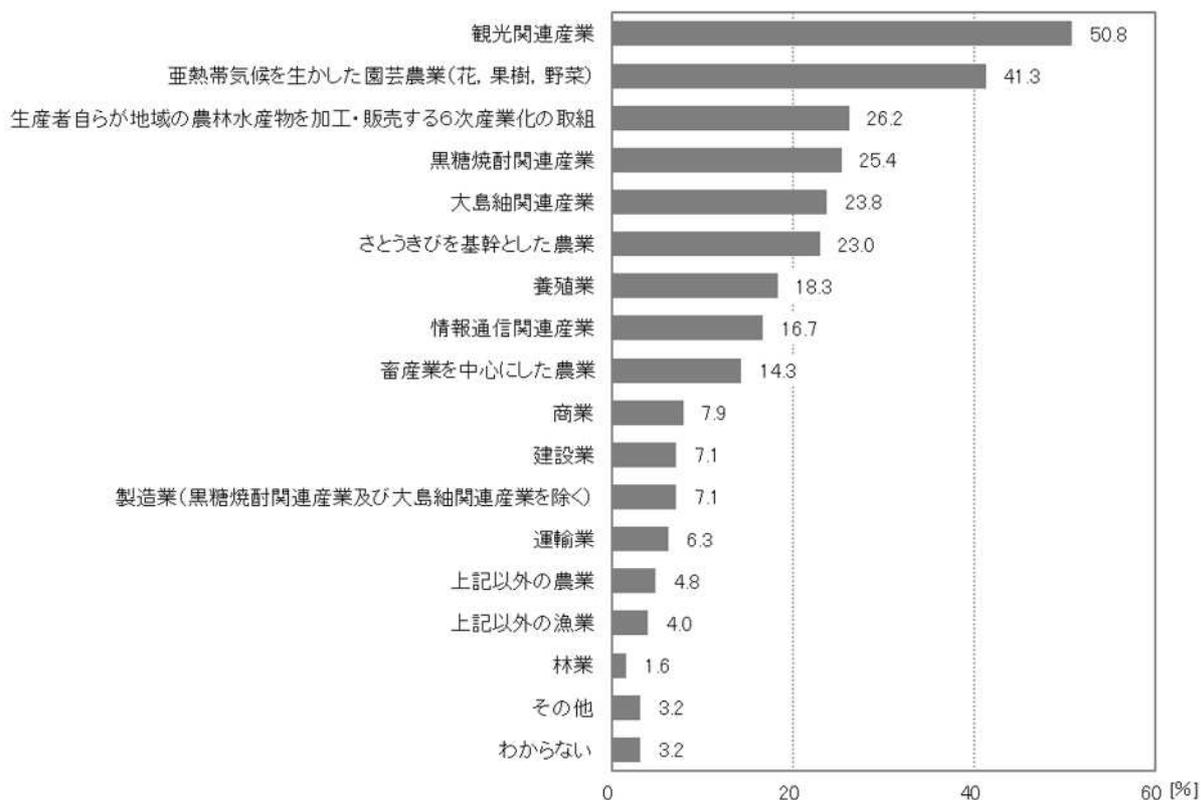
【奄美群島の将来の姿の希望 (N=126)】



⑧ 今後の島の発展・振興のために力を入れるべき産業

今後の島の発展・振興のために力を入れるべき産業については、「観光関連産業」が50.8%で最も多く、次いで「亜熱帯気候を生かした園芸農業(花, 果樹, 野菜)」(41.3%)、「生産者自らが地域の農林水産物を加工・販売する6次産業化の取組」(26.2%)などとなっている。

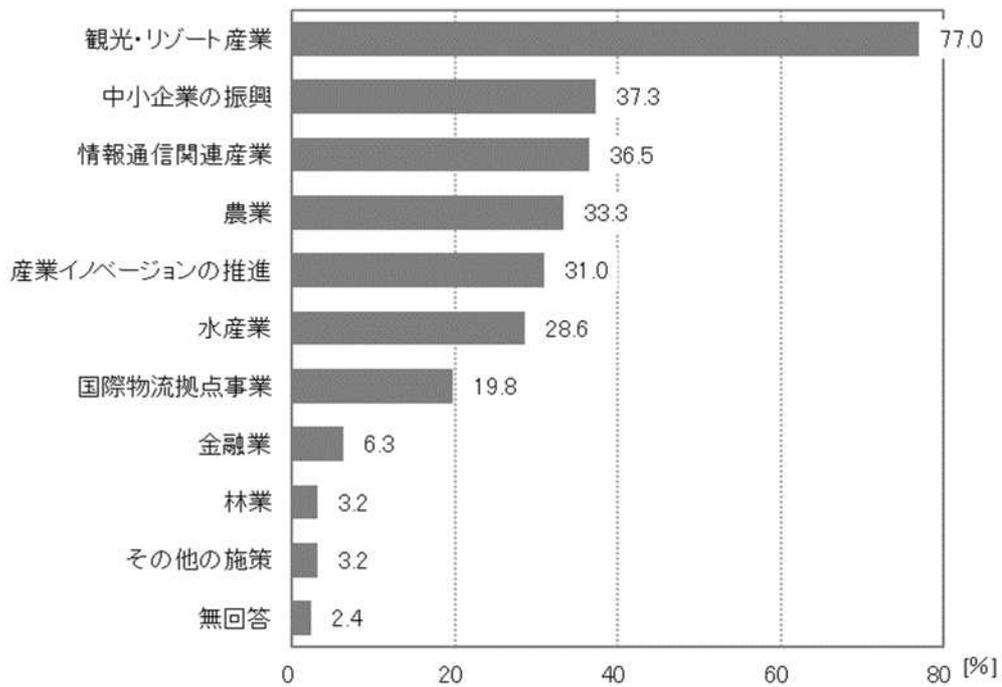
【今後の島の発展・振興のために力を入れるべき産業 (N=126)】



⑨ 沖縄県の振興施策のうち、奄美群島においても対等な競争をするために力を入れて支援すべきと考える施策

沖縄県の振興施策のうち、奄美群島においても対等な競争をするために力を入れて支援すべきと考える施策については、「観光・リゾート産業」が77.0%で突出して最も多く、次いで「中小企業の振興」(37.3%)、「情報通信関連産業」(36.5%) などとなっている。

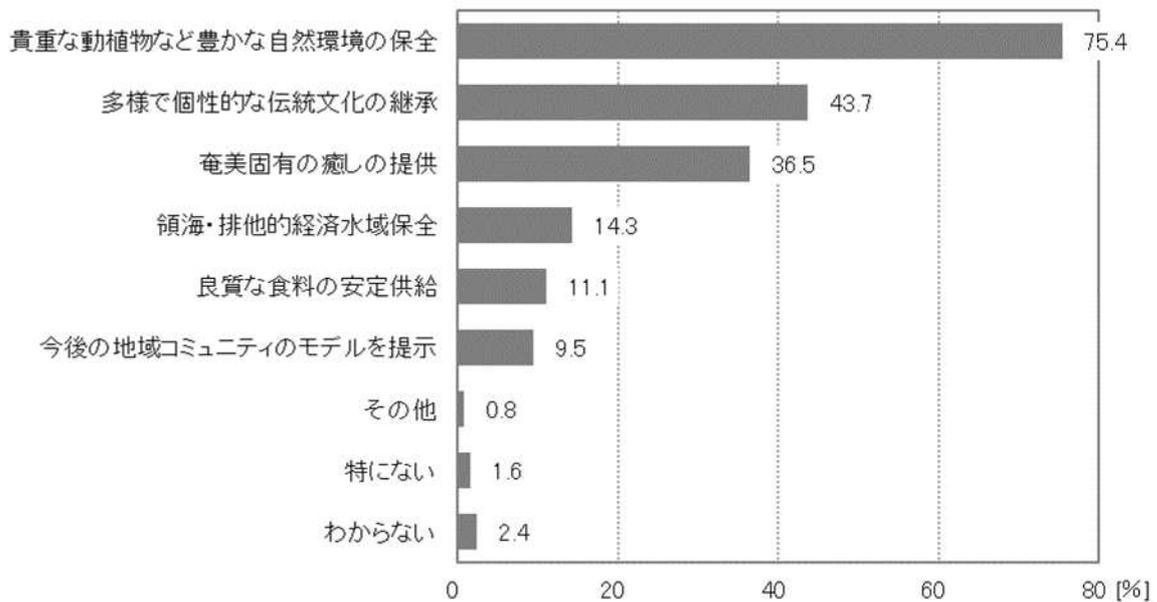
【沖縄県の振興施策のうち、奄美群島においても対等な競争をするために力を入れて支援すべきと考える施策 (N=126)】



⑩ 日本において奄美群島が果たしている役割又は今後果たすべき役割

日本において奄美群島が果たしている役割又は今後果たすべき役割については、「貴重な動植物など豊かな自然環境の保全」が75.4%で最も多く、次いで「多様で個性的な伝統文化の継承」(43.7%)、「奄美固有の癒しの提供」(36.5%)などとなっている。

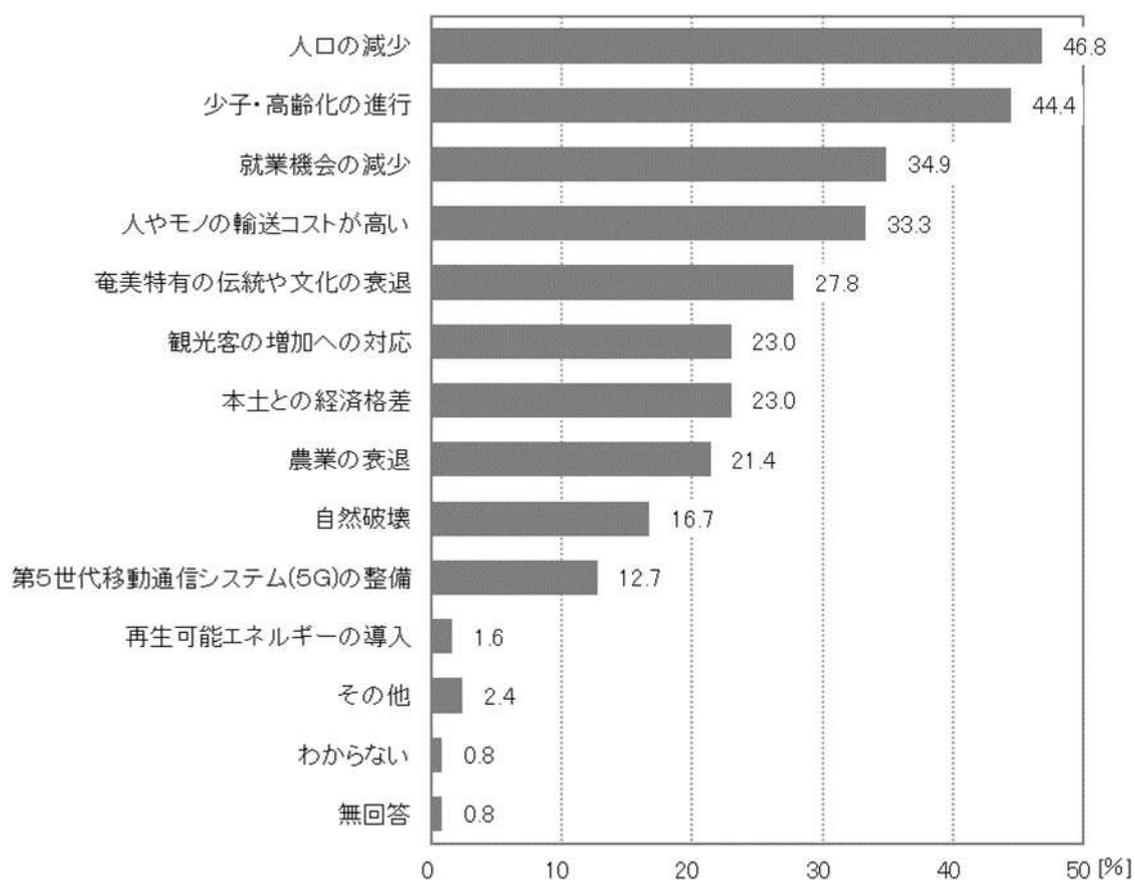
【日本において奄美群島が果たしている役割又は今後果たすべき役割 (N=126)】



⑪ 奄美群島の今後の問題点

奄美群島の今後の問題点については、「人口の減少」が46.8%で最も多く、次いで「少子・高齢化の進行」(44.4%)、「就業機会の減少」(34.9%)、「人やモノの輸送コストが高い」(33.3%) などとなっている。

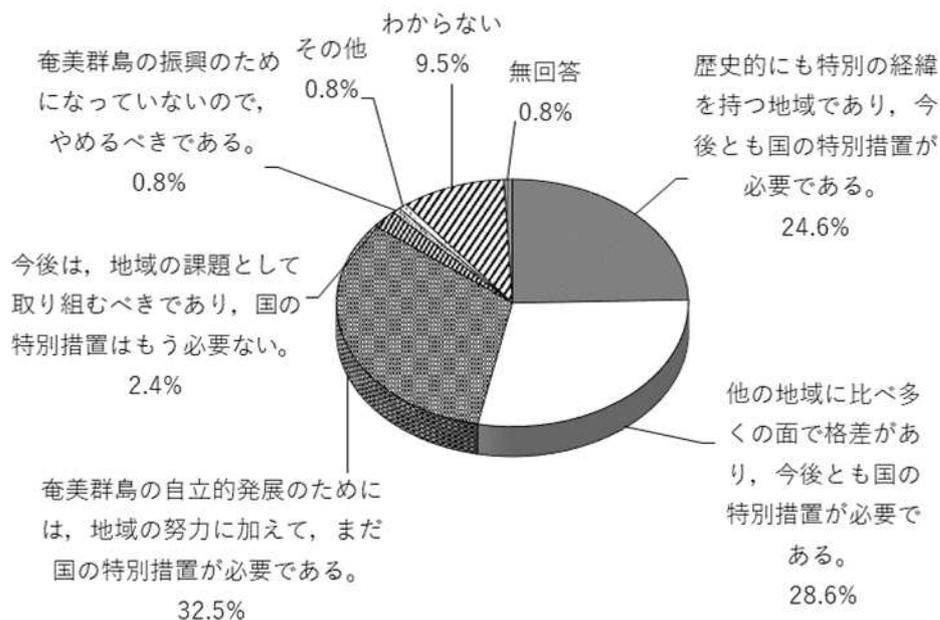
【奄美群島の今後の問題点 (N=126)】



⑫ 奄美群島振興開発特別措置法についての考え

奄美群島振興開発特別措置法についての考えについては、「奄美群島の自立的発展のためには、地域の努力に加えて、まだ国の特別措置が必要である。」が 32.5%で最も多く、次いで「他の地域に比べ多くの面で格差があり、今後とも国の特別措置が必要である。」(28.6%)、「歴史的にも特別の経緯を持つ地域であり、今後とも国の特別措置が必要である。」(24.6%) などとなっており、これら 3 項目を合計した『国の特別措置が必要である』が 85.7%と 8 割を超えている。

【奄美群島振興開発特別措置法についての考え (N=126)】



○具体的な意見・提言（続き）

- ・航空運賃の軽減。本土の企業の受け入れ。古い考えを持った人に流されない事。奄美、名古屋便の直行便の就航（奄美市出身、男、40歳代、鹿児島県内在住）。
- ・私がいた頃は、野良猫が多く糞の臭いが凄かった。今はどうか分からないが、一番嫌な思い出です。また、予断ですが運転マナーが悪い。（スピード出しすぎ）（奄美市出身、男、50歳代、鹿児島県内在住）。
- ・若い人材を定着させる方法。昨年脳梗塞となり回答不能な部分があります。誠にすみません。奄美は大好きでした。40年暮らしていました。益々の発展を祈ります（奄美市出身、男、70歳代以上、関東地方在住）。
- ・私は奄美が大好きです。奄美に恩返しがしたいと思い、今も大学で勉強をしています。私は島に住む人々が一番幸せになれる島になったら良いなとずっと思っています。近年、地域振興ということで観光に力を入れていると思います。勿論、観光面で発展する事もすごく重要ですが、奄美に古くから根付く島唄や八月踊りなどの伝統文化が永続するような、そんな島になったら良いなという野望を抱えています。意見でなくてすみません。私自身の意見として書かせていただきました。今後も奄美をより良くする為に島民みんなで力を合わせていけたら良いなと思います（奄美市出身、女、20歳代、九州（鹿児島県を除く）地方在住）。
- ・家族や妹が奄美に居る為、毎年2回は帰省しています。生まれ育った島は好きなのでいつかは帰りたい、子供が出来たら奄美で育てたいという希望はあります。ですが金銭面で厳しいという部分が多く、叶える事は出来ないと思っています。なかなか奄美での就職は厳しい。就職先が増えたら良いと思います。観光客が来て嬉しい面もありますが、島内の家族へのコロナの影響や、罹患した場合の島の医療は大丈夫かと不安です。奄美で育てて良かったと誇りに思っているの、自然や海が綺麗で以前と変わらないまま残っていると嬉しいと思います（奄美市出身、女、20歳代、中部地方在住）。
- ・商業施設を増やし、雇用が増えたら定住する方も増えると思います。亜熱帯気候を活かした農業や漁業を充実させ魅力ある奄美になって欲しいです（奄美市出身、女、40歳代、沖縄県在住）。
- ・沖縄の様に観光やリゾート産業に力を入れるのではなく、自然や伝統文化を大切に残して欲しい。数年後戻る時に変わらない奄美であって欲しい（奄美市出身、女、40歳代、九州（鹿児島県を除く）地方在住）。
- ・奄美群島に住んでいる人々が「自立的発展」に対する意識が無いように感じる。いつまでも国の特別措置に頼らないといけない状況では発展に限りがあるように感じる（奄美市出身、女、40歳代、鹿児島県内在住）。
- ・奄美を離れて分かった事です、人が穏やかで優しく、良い意味で「商売っ気が無い」ところがソフト面での良い所です。ただハード面では、台風が来るとあつという間に店から食料品が無くなる緊迫感や枯渇感があります。その台風時の不便さや気軽に鹿児島や本州へ行ける格安の交通手段が充実していれば、気に入る人も多いのではないかと思います（奄美市出身、女、40歳代、中部地方在住）。
- ・本土との所得水準や物価をはじめとする経済面の諸格差を強く感じます。これからも国の特別措置は期限なしが必要であると思います（奄美市出身、女、50歳代、鹿児島県内在住）。
- ・父の介護で島に帰省しました。帰省後職を探しましたが、職種が少なく、都会に比べて賃金があまりに安い。物価は高いのに島の人々はどう生活しているのだろうかと思いました。島は生活が大変ですね。佐大熊の住宅などはすごく寂れていて、台風の時はとても大変です。もっと島の高齢者や子供達が安心し、安全で豊かに暮らせるようになって欲しいです。市役所は住宅に比べて立派な建物で職員も多いのでその差に驚きました。奄美には他にはない良いところがたくさんあるので、それをもっと海外にアピールしていてもいいのではないのでしょうか。特に黒糖焼酎関連産業や大島紬関連産業に力を入れて欲しいです。ギャラリーが名瀬市内に1ヶ所もないのが残念です。誰でもストリートで気軽にアートを楽しめるようになるといいですね。アートにももっと力を入れて欲しいです（奄美市出身、女、60歳代、関東地方在住）。
- ・自然保護が中途半端だと思う。湯湾岳近くで山が建設ではげていたり、瀬戸内町の開発にもがっかりする。都会の人が求めているのは手つかずの島。クロウサギだけが良いのではない。柵物も素晴らしい（奄美市出身、女、70歳代以上、関東地方在住）
- ・奄美在住中は、奄美群島復興開発の恩恵も受けて楽しく充実した日々を過ごす事が出来ました。奄美群島は自然、伝統文化共に世界に誇れるものが多々あると感じています。今後も奄美群島の開発の為に振興開発特別措置を受けていくべきだと思います（瀬戸内町出身、男、30歳代、鹿児島県内在住）

○具体的な意見・提言（続き）

- ・私は生まれは龍郷町浦です。結婚後は名瀬に長い事住んでおりました。人も自然も、奄美大島が大好きです。在在中は大変お世話になりました。ありがとうございます。3年前に最愛の夫を亡くし、精神的に自分で自分を支える自信が薄れてきました。娘の助言に賛成し、仕方なく奄美を離れ川内に来ました。川内に暮らすのはしばらくの間のつもりでしたが、3年経ち、現在は通っているデイケアで奄美の料理、方言等を皆さんに伝えて楽しんでいます。今も幸せな時間を過ごしていますが、やはり奄美に帰りたいです。去年は帰省するつもりで知人・友人に家探しをお願いしましたが、猫と一緒に住めるところがありませんでした。ペットと一緒に暮らせる住宅を作って欲しいです。名瀬の優しいまちづくりの1つとしてそのような住民の意見を聞いてもらえれば、他の方も感心すると思います。どうぞご検討の程よろしくお願いします。奄美群島の発展を心よりお祈り申し上げます。群島外の郷土出身者会についてはまだこちらに来て3年目なので何も分かりません（奄美市出身、女、70歳代以上、鹿児島県内在住）。
- ・奄美群島固有の伝統・文化・自然は、島外の出身者にとってとても魅力的な物です。奄美群島にしかない強みだと思います。ぜひこの強みを活かして、奄美群島の振興に取り組んでいただければと思います。島民の生活の上からも国の特別措置は必要であり、続けていただくべきだと思います。私自身も、交通費等島に在住している時は助けられていました。開発事業について、台風前後の電力供給についてもう少し力を入れて欲しいです（喜界町出身、男、40歳代、鹿児島県内在住）。
- ・奄美のストロングポイントをもっとアピール出来たらと思います。いつでも安心して帰れるふるさと奄美。野球に打ち込める奄美。伝統と革新の調和する新世界奄美。自然と文化の融合する島、奄美。ウミガメと泳げる島、奄美。シーカヤックで散歩できる奄美。パッションフルーツの酸っぱさが程よい奄美。奄美には良いところがたくさんあります（瀬戸内町出身、男、50歳代、鹿児島県内在住）。
- ・人への投資をやるべだと思う。プロフェッショナルな人材が育つような本格的な職業訓練施設を作って欲しい（瀬戸内町出身、男、50歳代、鹿児島県内在住）。
- ・観光客向けのリゾートホテルの建設や、リゾートビーチを完備した方が良いのではないと思う。Iターン等移住者の増加が見込まれるので、住宅環境を整えるべきだと思う。医療も充実して欲しい（瀬戸内町出身、女、40歳代、中国・四国地方在住）。
- ・もう十分過ごしやすくなっていると思います。色々ありがとうございます。Uターンして戻ってきましたが、奄美での生活は毎日楽しくて面白いです（大和村出身、男、30歳代、鹿児島県内在住）。
- ・島の昔からの踊りや三味線を本当に活かして欲しいです（知名町出身、男、60歳代、関東地方在住）。
- ・奄美群島出身の若い世代や全国の若い世代が奄美群島で働きたいと思えるような環境を作るべきだと思います。もし今そういう環境の場があるのならSNSやネットをうまく使って発信し、若い世代からも興味をもってもらえるように仕掛けることが必要かと思えます。また地元で生活したいと思っていても、若い世代が輝けるような職種が少なく、そうなってしまうと職種の多い都会にどうしても出ざるを得なくなってしまう。今後若い世代でも生活しやすい環境になりつつあるのであれば、地元での永住も考えているので、いい方向に向かってくれることを期待しています（知名町出身、女、30歳代、沖縄県在住）。
- ・振興開発に繋がるかどうかは分かりませんが、奄美大島のように、奄美群島の他の島も東京や大阪など都市部との交通の便がよくなると、帰省もしやすく、交流も増えると思います。また、離島割引だけでなく、帰省する人にも割引があると、もっと気軽に帰省できると思います（知名町出身、女、50歳代、鹿児島県内在住）。
- ・農業は成果が報いられていないのではないかと。世界情勢や台風等の自然災害に左右され収入の増減が激しく、毎年賭けをしている状況から脱却できていないのがとても残念です。企業誘致（特に加工工場）に取り組み、規格外品でポテトチップス、でんぷん（片栗粉）そして、子芋、里芋、自然薯、ピーナッツ等の水煮や味付け真空パック等を製造する。農産物を加工する事で付加価値を付け、更に廃棄物の削減で収入増加し、経済的安定が保たれば農業意欲につながると思えます。労働に見合った生活水準に達しないと農業は衰退し、後継者不足に陥るのではと危惧します。明るく、豊かな未来を期待しています（知名町出身、女、60歳代、鹿児島県内在住）

○具体的な意見・提言（続き）

- ・ コロナウイルスなどの問題がありますが、移住者や企業の誘致などを積極的に行い、新しいアイデアや人材を受け入れていく必要があると考えます。地元民だけだと同じ考えに固執してしまう可能性があるため、多様な視点、意見、アイデアを生み出す為にも交流を増やすことが大切だと考えます（天城町出身、男、10歳代、九州（鹿児島県を除く）地方在住）。
- ・ 何もないのが丁度良い。住んでみないと分からない良さがたくさんある島に生まれたことを誇らしく思います。都会はモノが多すぎる。島生まれ、島育ちは最高です！（天城町出身、男、20歳代、九州（鹿児島県を除く）地方在住）。
- ・ 多方面からの意見を取り入れる事が重要だと思います（天城町出身、女、20歳代、鹿児島県内在住）。
- ・ 気軽に遊びに行ける料金（運賃）にして欲しいです（徳之島町出身、男、20歳代、九州（鹿児島県を除く）地方在住）。
- ・ 学習の機会が本土の学生と比べても少ないと感じています。私は高校卒業まで島で暮らしていましたが、塾がなかったり、本土の人達が受けている模試を受けられなかったりと不便な事が多いと感じていました。島内の子供たちが十分に学べる環境作りを行って欲しいです（与論町出身、女、20歳代、九州（鹿児島県を除く）地方在住）。
- ・ 観光客が増えたり奄美に興味を持ってIターンする人が増えたりするのは嬉しい事だが、そのせいで観光地化しすぎて奄美の元々の良さが無くなってきている。これからますます施設が増え、自然が減っていくのが目に見えて分かるので少し残念です。有名になるのは嬉しいが、わざわざ観光地化する必要があるのだろうか。奄美に住んでいる人の為の奄美を維持し、より良く作り上げて行って欲しい（龍郷町出身、女、20歳代、近畿地方在住）。
- ・ 結婚を機に沖永良部島の方に籍を置いていましたが、物価は高いのにスーパー等アルバイトの賃金は安く、皮膚科や耳鼻咽喉科も無いので生活に不便を感じました。また、島民の方の人情味が私にとってはつらい部分がありました。元々人間が好きではない私にとっては人と人の距離感が近いように感じられ、自分が生まれ育った環境との大きな違いもあり、転出という事になりました（和泊町出身、女、20歳代、鹿児島県内在住）。
- ・ 私は鹿児島市出身ですが、家族の転勤等で小学生、20代、30代の計9年間奄美群島で生活していました。以前よりもだいぶ便利になり過ごしやすくなったと思います。ただ、便の変更やキャンセルが在住者じゃないと高くつくので気軽に遊びに行けないのが残念です（コロナ禍は関係なく）。あと、台風の時が不便（物資が届かない、停電になる等）、ネット注文しても届くまで時間がかかる、サービスによっては沖縄並みの送料を払わなければいけない等の問題が少しでも解消したら、住みたいと思う人も増えるかなと思います。奄美群島は自然が美しく、人々も親切で温かく魅力いっぱいなので、今後もっと住み良くなっていくことを期待しています（和泊町出身、女、40歳代、鹿児島県内在住）。

【問 8 は、問 6 で 3 又は 4 と回答された方にお聞きます。】

問 8 島への U・I ターン及び二地域居住※などを促進するために必要なことは何だと思えますか。(次の中から 2 つ選んでください。)

- 1 労働条件(給与・福利厚生等)に合う仕事があること
- 2 医療・福祉が充実すること
- 3 住宅など生活環境が良くなること
- 4 大学・専門学校等の教育機関があること
- 5 島内外の交通が便利になること(運賃の軽減を含む)
- 6 豊かな自然環境が維持、保全されること
- 7 結いの精神により地域住民が助け合うこと
- 8 スポーツ・娯楽施設・芸術文化施設が充実すること
- 9 物価が安くて安定すること
- 10 生活資金、住宅購入等の助成制度の整備・充実
- 11 その他()
- 12 今のままで特に必要なものはない
- 13 わからない

問 8

※ Uターン=進学や就職などで他地域に住んでいた人たちが故郷に戻り住むこと
Iターン = 都会に住む人が自分の故郷以外の地方へ移り住むこと
二地域居住=都市と地方の両方に生活場所を設けて、週末や季節ごとに行き来して生活すること

【以下、すべての方にお聞きます。】

C 奄美群島との関わり合いについて

問 9 群島外においては、郷土出身者会等が組織され、様々な活動が行われているところもありますが、あなたは郷土出身者会等にどの程度参加されていますか。(次の中から 1 つ選んでください。)

- 1 役員をしている
- 2 積極的に参加している
- 3 年に 1、2 回参加している
- 4 数年おきに参加している
- 5 全く参加していない
- 6 登録もしていない

問 9

問 10 郷土出身者会等は、奄美群島の振興開発のために、どのような役割を果たすべきだとお考えですか。(次の中から 2 つ選んでください。)

- 1 観光PRなどの情報発信
- 2 出身者や会員相互の情報交換
- 3 特産品の販路拡大
- 4 伝統文化の継承
- 5 企業立地、雇用の斡旋
- 6 産業支援
- 7 その他()
- 8 特にない

問 10

【出身者用】

D 奄美群島の魅力について

問 11 あなたにとって奄美群島の魅力は何ですか。(次の中から2つ選んでください。)

- 1 固有の文化や伝統が日常生活の身近にあること
- 2 結いの精神により地域住民が助け合って暮らせること
- 3 都会にはないゆったりとした気持ちで暮らせること
- 4 豊かな自然に恵まれていること
- 5 一年を通じて温暖であること
- 6 他では味わえない産物や郷土料理があること
- 7 手軽にスポーツやレジャーが楽しめること
- 8 その他 ()
- 9 特に意識していない
- 10 わからない

問 11

E 奄美群島振興開発の評価と期待について

問 12 奄美群島は全体的なイメージとして10年前に比べて良くなったと思いますか。(次の中から1つ選んでください。)

- 1 大変良くなった
- 2 いくらかは良くなった
- 3 変わっていない
- 4 少し悪くなった
- 5 大変悪くなった
- 6 わからない

問 12

問 13 奄美群島振興開発事業では、次の事業を実施してきました。あなたは、それぞれの事業について、現状を「満足度」で表すと、どのように評価されますか。(評価(満足度)にあてはまる番号(1～5)を1つ選んでください。)

事業内容	満足度				
	満足	ほぼ満足	やや不満	不満	わからない
定住を促進するための方策					
産業の振興					
農業(かんがい排水事業など農業基盤整備や付加価値の高い生産、販売、流通に向けた取組など)	1	2	3	4	5
情報通信(情報通信技術の高度化や多様化に対応できる人材育成の取組など)	1	2	3	4	5
水産業(漁場、漁港整備の推進、栽培漁業の推進など)	1	2	3	4	5
林業(森林環境保全整備、林道整備、森林資源活用調査など)	1	2	3	4	5
商工業(特産品販路拡大促進、人材育成、企業誘致など)	1	2	3	4	5
移住・交流の促進	1	2	3	4	5

【出身者用】

世界自然遺産登録などを生かした交流拡大のための方策					
世界自然遺産登録を見据えた取組の推進（国立公園等保護地域の管理、希少種の保護対策など）	1	2	3	4	5
共生ネットワークの形成	1	2	3	4	5
群島内外との交流の促進	1	2	3	4	5
滞在型・着地型観光を促進するための方策					
地域資源を生かした観光施策の展開（受入体制の整備、観光情報の発信など）	1	2	3	4	5
愛着を育む地域文化の継承、創造	1	2	3	4	5
奄美群島が抱える条件不利性の改善					
航空運賃の軽減 奄美群島における島外への移動コストの負担軽減を図るため、奄美群島の住民等を対象とした航空運賃の一部助成を行っています。	1	2	3	4	5
航路運賃の軽減 奄美群島における島外への移動コストの負担軽減を図るため、奄美群島の住民等を対象とした航路運賃の一部助成を行っています。	1	2	3	4	5
群島内の誘客・周遊促進 奄美群島内での効果の波及を図るため、航空・航路事業者と連携したプロモーションを行っています。	1	2	3	4	5
奄美・沖縄の連携交流促進 奄美群島と沖縄の住民等の交流を促進するため、奄美群島及び沖縄発の航空運賃と航路運賃の一部助成を行っています。	1	2	3	4	5
農林水産物等の輸送コスト支援 奄美群島における農林水産物等の輸送コストの負担軽減を図るため、本土と比べ割高となっている農林水産物等の輸送費の一部助成を行っています。	1	2	3	4	5
水産物流通支援事業 奄美群島における水産業の振興を図るため、水産物の出荷団体が、奄美群島から沖縄本島まで出荷する際の輸送費の一部を補助しています。	1	2	3	4	5
奄美群島成長戦略の推進 奄美群島の自立的発展を図るため、市町村、広域事務組合等による地域の裁量に基づく産業振興等の取組を支援しています。	1	2	3	4	5
物価の軽減（国の支援制度による離島のガソリン価格の引き下げなど）	1	2	3	4	5
交通基盤の整備					
航空交通（空港施設の更新・改良など）	1	2	3	4	5
海上交通（港湾施設の整備や維持管理、老朽化対策の推進など）	1	2	3	4	5
陸上交通（国・県・市町村道の整備や維持管理など）	1	2	3	4	5

【出身者用】

防災及び国土保全					
消防防災の充実（防災関連施設の整備など）	1	2	3	4	5
治山対策の推進（治山対策の推進、海岸防災林の整備の推進など）	1	2	3	4	5
治水対策の推進（河川の改修、急傾斜地崩壊対策、地すべり対策の推進など）	1	2	3	4	5
海岸保全の推進（堤防、護岸等の海岸保全施設の整備の推進など）	1	2	3	4	5
港湾整備の推進（耐震強化岸壁や防災拠点緑地等の整備の推進など）	1	2	3	4	5
奄美群島の生活基盤の確保・充実					
保健医療福祉					
保健医療（健康づくり、医療提供体制の整備など）	1	2	3	4	5
ハブ対策（ハブ駆除対策、ハブ咬傷対策）	1	2	3	4	5
社会福祉（高齢者・児童福祉等の推進など）	1	2	3	4	5
教育及び人材育成					
教育（学校教育や生涯学習の充実）	1	2	3	4	5
人材育成（地域、暮らし、産業を支える人材の育成・確保）	1	2	3	4	5
生活環境					
水道（未普及地域の水道整備、既設の水道施設の統合整備や施設の更新等の促進など）	1	2	3	4	5
都市基盤（生活排水処理施設の整備促進など）	1	2	3	4	5
住環境の整備（老朽化した公営住宅の建替えや長寿命化計画に基づく既存住宅の長寿命化等の促進など）	1	2	3	4	5
安全・安心まちづくりの推進（犯罪の未然防止や交通安全思想の普及啓発など）	1	2	3	4	5
地域環境の保全（水環境の保全、騒音・悪臭等の防止、ヤンバルトサカヤスデの駆除など）	1	2	3	4	5
循環型社会の形成	1	2	3	4	5
自然環境配慮型・自然再生型公共事業等の実施	1	2	3	4	5
資源・エネルギー					
水資源（老朽化したため池等の改修を推進し水資源の安定確保に努めるなど）	1	2	3	4	5
再生可能エネルギー（地域特性を生かした再生可能エネルギーの導入の促進など）	1	2	3	4	5
電力（電力の需要状況等の的確な把握など）	1	2	3	4	5

【出身者用】

問 14 奄美群島は、将来どのような島になって欲しいですか。(次の中から2つ選んでください。)

- 1 温暖な気候を生かした農業の島
- 2 海洋資源を生かした漁業の島
- 3 森林資源を生かした林業の島
- 4 大島紬などの伝統産業が栄える島
- 5 島の資源を活用した特産品産業が栄える島
- 6 全国から多くの観光客が訪れる島
- 7 情報通信関連産業の盛んな島
- 8 豊かな自然に恵まれた島
- 9 奄美の伝統文化の息づく島
- 10 人情味あふれた心豊かな島
- 11 医療や福祉が充実した子育て・高齢者に優しい島
- 12 災害に強く安全に暮らせる島
- 13 その他 ()
- 14 わからない

問 14

問 15 奄美群島の島の発展、振興のためには、今後、どの産業に力を入れたら良いと思いますか。(次の中から3つ選んでください。)

- 1 さとうきびを基幹とした農業
- 2 亜熱帯気候を生かした園芸農業(花、果樹、野菜)
- 3 畜産業を中心にした農業
- 4 上記以外の農業
- 5 林業
- 6 養殖業
- 7 上記以外の漁業
- 8 建設業
- 9 黒糖焼酎関連産業
- 10 大島紬関連産業
- 11 生産者自らが地域の農林水産物を加工・販売する6次産業化※の取組
- 12 製造業(黒糖焼酎関連産業及び大島紬関連産業を除く。)
- 13 情報通信関連産業
- 14 商業
- 15 観光関連産業
- 16 運輸業
- 17 その他 ()
- 18 わからない

問 15

※ 6次産業化・・・農業や水産業などの第1次産業従事者が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態

【出身者用】

問 16 沖縄県において振興している次の各種施策のうち、奄美群島においても対等な競争をするために力を入れて支援すべきと考える施策を、次のうちから3つ選んでください。

- 1 観光・リゾート産業
- 2 情報通信関連産業
- 3 国際物流拠点事業
- 4 産業イノベーションの推進
- 5 金融業
- 6 農業
- 7 林業
- 8 水産業
- 9 中小企業の振興
- 10 その他の施策（ ）

問 16

問 17 日本において奄美群島が果たしている役割又は今後果たすべき役割は何だと思えますか。（次の中から2つ選んでください。）

- 1 貴重な動植物など豊かな自然環境の保全
- 2 多様で個性的な伝統文化の継承
- 3 今後の地域コミュニティのモデルを提示
- 4 奄美固有の癒しの提供
- 5 良質な食料の安定供給
- 6 領海・排他的経済水域保全
- 7 その他（ ）
- 8 特にない
- 9 わからない

問 17

問 18 奄美群島の将来を考える上で、奄美群島の今後の問題点は何だと思えますか。（次の中から3つ選んでください。）

- 1 農業の衰退
- 2 観光客の増加への対応
- 3 第5世代移動通信システム(5G)の整備
- 4 人口の減少
- 5 奄美特有の伝統や文化の衰退
- 6 就業機会の減少
- 7 自然破壊
- 8 再生可能エネルギーの導入
- 9 本土との経済格差
- 10 人やモノの輸送コストが高い
- 11 少子・高齢化の進行
- 12 その他（ ）
- 13 特にない
- 14 わからない

問 18

【出身者用】

奄美群島振興開発事業の概要

【これまでの経緯】

奄美群島においては、昭和28年に日本へ復帰して以来、数次の法改正に基づいて、各般にわたる事業が実施され、交通基盤、産業基盤、生活環境などの社会資本の整備が着実に進むなど相応の成果をあげてきている。

しかし、本土から遠隔の外海離島という地理的条件、台風常襲地帯であるなどの厳しい自然条件下にあり、本土との間には、所得水準や物価をはじめとする経済面の諸格差が依然として存在し、人口減少や高齢化の進展など、いまだ解決されない課題が残されている。

一方、平成26年4月の奄振法の延長に伴い、運賃の低廉化や輸送コスト支援などの条件不利性の改善や産業の振興のために地域の裁量に基づく施策の展開を促進する奄美群島振興交付金が創設され、ソフト施策を主体とした取組が進められてきたところである。

奄美群島は、亜熱帯・海洋性の豊かな自然、世界的にも貴重な動植物、個性的な伝統文化などを有しており、今後、世界自然遺産登録の効果を生かして、大きく発展する可能性を秘めている。

現行計画(R元-R6)のもと、奄美群島の自立的発展を目指し、国、県、地元市町村等がと一体となってハード・ソフトの両面から、効率的・効果的な施策の展開に努めている。

- 昭和20年 終戦
- 昭和21年 日本から行政分離され、約8年米国軍政下に統治される
- 昭和28年 日本に返還され、鹿児島県の行政管理下に編入される
- 昭和29年 奄美群島復興特別措置法を制定
- 昭和39年 奄美群島振興特別措置法と改称
- 昭和49年 奄美群島振興開発特別措置法と改称（以下数次の法改正）
- 平成26年 奄美群島振興開発特別措置法の一部改正
（奄美群島振興交付金の創設）
- 令和元年 奄美群島振興開発特別措置法の一部改正
（有効期限を令和5年度末まで5か年延長）

振興開発事業計画	主な事業（令和元年度～令和5年度見込み）
1 定住を促進するための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・農業基盤整備や付加価値の高い生産、販売、流通に向けた取組 ・情報通信技術の高度化や多様化に対応できる人材育成の取組 ・特産品販路拡大促進、人材育成、企業誘致
2 世界自然遺産登録などを生かした交流拡大のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・世界自然遺産登録に向けた取組 ・自然環境の保全と利用の両立を図るための取組 ・群島内外との交流の促進 ・沖縄県との連携による移動コストの軽減や共同イベントの開催
3 滞在型・着地型観光を促進するための方策	<ul style="list-style-type: none"> ・奄美の島唄・島口の伝承に係る取組 ・観光施設等の受入体制の整備 ・観光交通体系の整備
4 奄美群島が抱える条件不利性の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・航空運賃及び航路運賃、農林水産物等の輸送コストの軽減 ・国の支援制度による離島のガソリン価格の引き下げ ・交通基盤の整備（港湾・空港施設、道路の整備や老朽化対策の推進）
5 奄美群島の生活基盤の確保・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・奄美ドクターヘリなど、保健医療体制の整備 ・ハブ駆除対策、ハブ咬傷対策 ・学校教育、生涯学習の充実 ・水道、生活排水処理施設などの生活環境の整備
6 地域主体の取組の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・営農ハウス・平張り施設や共同利用機械の整備 ・奄美群島エコツーリズムの推進や観光物産広域連携の取組 ・希少野生動植物の保護、外来生物の駆除

【出身者用】